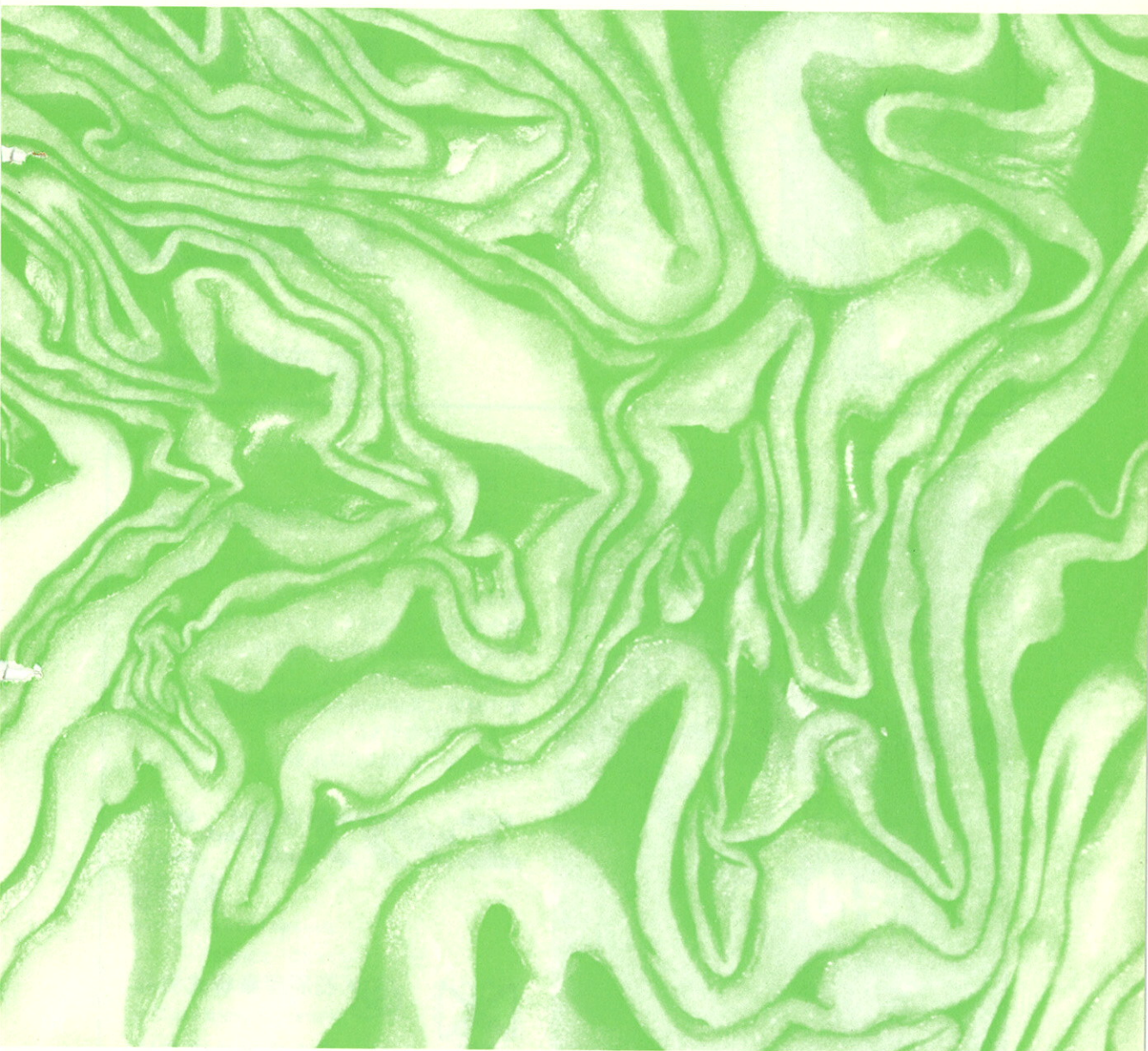


植調

第21巻第12号



財団法人 日本植物調節剤研究協会編



名指揮者

数多くの音楽を演出する指揮者。
激しく、または柔らかくタクトを振り、
それぞれの音楽を上手に創り上げます。
農作業場面も多種多彩。
それぞれの場面に応じられる指揮者が必要です。
三井東圧化学は、
農作業場面の指揮者として、
除草、殺虫、殺菌など、
それぞれの場面にあった農作業を
上手に演出します。

経済的な初期除草剤

MO粒剤-9

ホタルイ等に卓効を示す初期除草剤

ショウロンM粒剤

水田初・中期一発処理剤

シンザン粒剤

水田初期一発処理剤

オーザ粒剤

水田初期一発処理剤

ヨートル粒剤

水田全天候型除草剤

グラノック粒剤



三井東圧化学

東京・大阪・名古屋・福岡・札幌

効きめで
選ぶ。
経済性で
決める。

苗にやさしく

雑草に強い水田初期除草剤

- 効めが長く、すばらしい殺草力を発揮。
- 低温でもイネに対して安全。
- 人畜毒性、魚毒性ともにきわめて低く、安心。
- 田植前に使用の場合は散布後3日以上の間隔をあけて田植する。
- 田植後に使用の場合は田植後8日(ノビエ1葉)までに散布する。
- 散布後3日間以上は止水にし、かけ流しはしない。

エックスゴーニ® 粒剤

®は日本農薬と石原産業の共有登録商標

エックスゴーニ協議会



○本剤のシンボルマークです



石原産業株式会社

〒102 東京都千代田区富士見2-10-30



日本農薬株式会社

〒103 東京都中央区日本橋1-2-5

農 薬 米

農薬米というものがあるわけではなく、一般の産米のことであるが、有機農業でいう、いわゆる無農薬米に対するだけの言葉として、ここでは使わせてもらうことにする。従って、農薬が残留しているいらないには関係なく、ましてや有毒な米を意味するものではない。しかし、最近は一方向的なマスコミの報道などにより、多くの消費者がこの農薬米を健康上危険性があると思いこまされている向きがある。

昨年から数編に分けて朝日新聞の家庭欄に、「お米はどうなる」という記事が連載されている。今日的な話題でもあり、関心がもたれる。多くの評価点、問題点のある中で、昨年8月の第3部、田んぼからの報告編に、無農薬米は1俵4万円でも飛ぶように売れるという話題があった。米価が高いと非難されているなかで、標準価格の更に倍である。自分の主義主張から無農薬米でなければならないという金持ちが買うのであれば特に取立てて問題にすることはないが、農薬米は危険であるから高くともというのであれば問題の根は深い。

残留農薬の安全性については、考えられる最も厳しいチェックが行なわれている現状から、若し「農薬米は危険か」といわれれば、農薬成分の毒性を十分承知した上でも、安全と答えるものである。にも拘らず農薬を使っていることだけで危険と決めつけ、その生産物は危険とする考えを一般化しようとする報告が多い。安全性については絶対安全ということは困難であり、その否定できない部分の危険性を取出して強調することは、全体を見失うことになる。無農薬米の流通が農薬米は危険というムードの

目 次 (第21巻 第12号)

巻 頭 言

農 薬 米…………… 1

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会
常務理事 吉田孝二＞

茨城県における水田雑草の発生に関

する調査から…………… 2

＜茨城県農業試験場 窪田 満＞

1. 多年生雑草の発生面積…………… 2

2. 雑草発生に関わる要因について…………… 2

3. 一発処理剤についての農家の意向…………… 6

4. 除草剤の袋・容器のラベルについての意見…………… 6

5. お わ り に…………… 7

昭和62年度水稲作関係除草剤試験成

績概要…………… 10

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会
技術部＞

人 事 往 来…………… 49

上に成り立ち、またそのムードが意識的に醸成されているようなことがあるなら甚だ遺憾である。

正確な資料の作成、提供によって、農薬の適確な安全性評価が、一般家庭にまで定着するような努力の必要性を改めて痛感する。

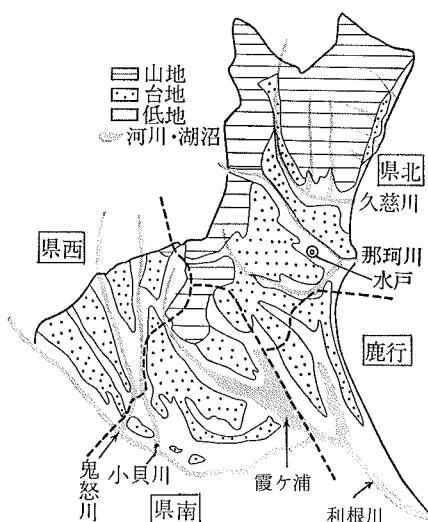
〔財団法人 日本植物調節剤研究協会
常務理事 吉田孝二〕

茨城県における 水田雑草の発生に関する調査から

茨城県農業試験場 窪田 満

茨城県ではホタルイとウリカワの発生が多く、また、オモダカも目立ってきた。そこで多年生雑草を中心に発生実態を調査しようとし、昭和61年7月に県病害虫防除員（農家、327名）全員に対し、その地区の農作業の方法、発生雑草、発生面積、防除法等について調査表を作成し、アンケート調査を行った。回収率は46%で地域別のかたよりはなかった。昭和48年にも同様の調査を行ったのでそれにも若干ふれながら今回の調査の概要を紹介する。

なお、地域区分と地形の概要は第1図のようである。



第1図 地域区分とその地形の概要

1. 多年生雑草の発生面積

除草剤およびその他の雑草防除手段がとられ

ている水田での草種別の発生面積の割合は第1表に示すとおりである。

第1表 主な水田雑草の発生面積の割合（昭和61年7月）

(%)

地 域 (水稲面積)	県 北 (27,000 ha)		県 南 (32,600 ha)		県 西 (27,500 ha)		鹿 行 (9,370 ha)		県 計 (96,500 ha)		昭和58年 (94,700 ha)	
	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b
雑 草 種 別												
ホタルイ	39	22	23	14	22	15	26	18	26	17	53	33
ウリカワ	37	24	29	20	38	27	33	21	34	23	37	24
ミズガヤツリ	8	5	4.1	2.5	8	4.5	13	9	7	4.3	17	9
クログワイ	19	11	11	5	21	15	5	4.1	16	9	17	10
オモダカ	26	17	31	22	20	12	13	9	25	16	22	13
ヒルムシロ	2.6	1.7	3.4	2.8	2.0	0.9	0	0	2.4	1.6	3	2
セリ	15	8	8	4.8	4.8	3.2	9	5	9	5	17	9
マツバイ	11	7	9	5	10	8	9	7	10	7	17	11
ノビエ	1.5	1.1	7	6	8	5	11	7	6	4.4	15	11
コナギ	7	4.2	4.0	2.4	6	4.4	0	0	5	3.2	10	7

注) a: 雑草発生水田の割合。

b: aのうち全体または局部的に問題になっている水田（防除必要面積）の割合。

ウリカワ、ホタルイ、オモダカは県下一円で発生が多い。昭和58年の調査に比べて、オモダカ、クログワイ、ウリカワが同程度のほかは、減少した。地域別では県北の減少が目立つ。

前回最も多かったホタルイは半分になったがほとんどが県北と県南の減少による。ホタルイに効果の高い初期剤や一発処理剤の普及によるものと考えられるが、まだ、県北では39%、その他の地域でも20%をこえている。ウリカワは34%と最も多く、どの地域でも多い。前回調査と比べ県南では10%減少し、鹿行では17%増加した。オモダカは25%で、県南ではウリカワ・ホタルイを上回る31%、県北・県西でも20%以上と多い。クログワイは県西・県北では20%程度みられ、とくに県西では前回（8%）の倍以上となった。マツバイは10%で全地域に平均して分布している。ミズガヤツリは前々回調査の昭和49年には34%あったが、前回は17%、今回は7%と減少し問題は少なくなってきた。ミズガヤツリは7～8年前から減少が目立ってきたとの声が多く、トラクタによる代かきの増加と関連があるように思われる。

セリは9%であるが、県北では15%と多い。ヒルムシロは局所的に発生しているにすぎない。

除草手段がとられている状態での調査であるがさらに防除が必要な面積は、草種にかかわらず発生面積のほぼ3分の2程度とみられ、前回

に比べ発生面積の多い地域での比率はわずかに高くなった。

2. 雑草発生に関わる要因について

1) 水田の乾湿、耕起・代かきの方法

第2表に示した。

乾田は県西の65%が最も多く、県北が45%で最も少ない。湿田は鹿行の24%が最も多く、あとは13～17%。半湿田は県北と県南では30%を上回っている。

湿田が少ないほど耕起の時期が早い。2回耕もふえている。トラクタによるロータリー耕が多いが、県北・鹿行では耕耘機が25%程度使われている。

代かき作業は耕起作業に比べ、トラクター利用が少なく、ティラーの利用がやや多くなっている。

2) 代かき後田植までの日数

雑草の発生時期や除草剤の処理に大きくかわりのある代かきから田植までの日数は、土壌、田植え面積などによって左右される。

4日以内に田植えを行う割合は、県西が81%と多く、県北（62%）、県南（57%）、

鹿行（54%）の順となり、鹿行では7日

地 域	日 数		
	≤4日	5～6日	7日≤
県 北	62	34	4
県 南	57	35	8
県 西	81	17	2
鹿 行	54	34	12

第2表 水田の乾湿、耕起・代かきの方法

(%)

地 域	乾 田	半 湿 田	湿 田	耕 起 の 時 期			耕 起 の 機 械			耕 起 方 法		代 か き の 機 械		
				月 10～11	月 12～2	月 3～	耕耘機	ティラー	トラクタ	ロータリ	鋤	耕耘機	ティラー	トラクタ
県 北	45	38	17	39	22	56	26	9	65	86	14	21	22	57
県 南	53	31	16	47	29	42	11	4	85	92	8	14	6	80
県 西	65	22	13	52	43	61	4	2	94	97	3	4	6	90
鹿 行	50	26	24	27	25	74	24	2	74	94	6	27	10	63

以上が10%をこえ12%を占める（第3表）。

代かき後田植まで日数は水田の乾湿、土質・土性、水持ちの良否などによる田面の固まりぐあいの差や作付面積の大小が主に関係しているが、兼業農家では、土・日曜毎の作業が増える傾向にあり、この要因も無視できない。

3) 除草剤の種類別にみた使用組合せ

「あなたの地区でとられている除草体系とその割合について多い順に記入して下さい」とい

う設問で、具体的な除草剤名、手取り・中耕、刈り跡防除について調査した。このうち水田期間中に限り除草剤の種類別の組み合わせについて集計したものが第4表である。合計の88%は除草剤の出荷量からの推定値とほぼ一致する。

一発処理剤関連が33.4%。そのうち、一発処理剤のみが26.4%、中～後期剤との組合せが5%、初期剤のあとに使う場合が2%ある。

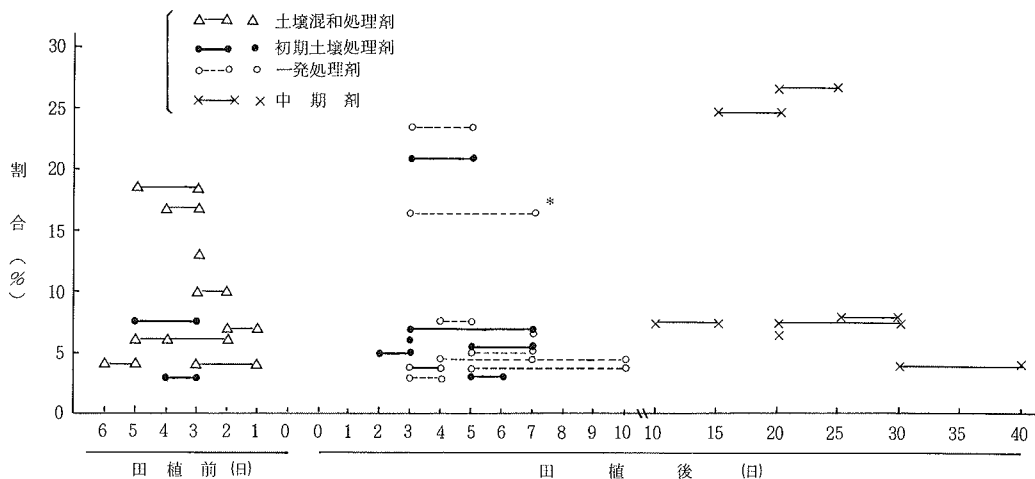
初期剤→中期剤の組合せが46.4%と最も多く、

さらに後期剤を組合せたり、初期剤のみの使用は5%以下である。

4) 除草剤の種類別にみた処理時期

調査者の地区で使われている除草剤について使用時期（田植後3～7日のように記入）を調査し、除草剤の種類別に集計し3%以上の回答があった使用時期について第2図に示した。

	県北	県南	県西	鹿行	全体
① 一発処理剤のみ	16.2	28.7	34.8	34.3	26.4
② " → 中期剤	1.1	6.5	2.5	12.1	3.7
③ " → " → 後期剤	0.8	3.5	0	5.3	1.3
④ 初期剤→一発処理剤	2.4	1.7	1.0	0	2.0
(小計)	20.5	40.4	38.3	51.7	33.4
⑤ 初期剤のみ	0.8	5.0	7.3	4.0	3.5
⑥ " → 中期剤	58.4	44.5	43.2	27.3	46.4
⑦ " → " → 後期剤	3.4	2.1	6.9	6.0	4.7
(小計)	62.6	51.6	57.4	37.3	54.6
合 計	83.1	92.0	95.7	89.0	88.0



第2図 除草剤の種類別にみた処理時期と割合

注：*は、一発処理剤の処理時期を田植後3～7日と回答した人が16.5%あったことを示す線の長さは処理時期の幅のみ示し、頻度とは無関係。
3%未満は省略した。

土壌混和处理剤の処理時期は、田植前3～5日が18.6%で最も多く、同3～4日と同3日を加えると48%となる。

次いで同2～3日、同1～2日、同2～4日＝同4～5日と続く。同0～1日と同0～2日を合せて2.9%あった。

土壌処理剤は、田植後3～5日処理が20.9%で最も多く、次は田植前3～5日（7.4%）、田植後3～7日（6.1%）、同5～7日（5.5%）、同2～3日（4.9%）の順。田植前処理は19.3%を示し、田植後5日から10日の間に入る時期が16.6%であった。

一発処理剤は、田植後3～5日が23.3%で最も多く、次いで同3～7日の16.5%が多い。田植後3日から7日までに91%が入る。ほぼ適正使用時期に使われている。

中期剤は田植後20～25日（26.6%）と同15～20日（24.7%）の使用が多い。田植後30日以後が7%みられるが、ベントザンを含めたため多くなつた。

5) 除草剤の種類別にみた10a当り使用量

4)の設問のうち10a当り使用量について同様に集計したものが第5表である。

土壌処理剤は3kgが38.1%と最も多く、4kgまでに90%が入っている。

一発処理剤は3kgが45.2%、4kgまでに94%が入っている。

中期剤は、一発処理剤とは同様の使用量である。

土壌混和处理剤は500mlが90%近くで、最高でも750mlである。

6) 粒剤の散布方法別割合と散布時間

粒剤の散布方法区分を手まき、手まわし散粒機、背負動散水田内歩行、同畦畔と水田中央1回、同畦畔からのみ、同パイプダスター、その他とし、散布面積(%), 10a当り散布時間(分)を調査した。

手まきは鹿行(54%)と県北(42%)が多く、県南(27%)と県西(28%)はほぼ等しい。散布時間は鹿行と県北が34～32分で、県南と県西は26～27分であった。

手まわし散粒機は県西では72%と多く、県北・県南では50%強、鹿行では30%と少ない。散布時間は鹿行で21分かかっているが、県南・県西では15分にすぎない。

第5表 除草剤の種類別にみた10a当り使用量と割合

(%)							
使 用 量 kg／10 a	初 期 土 壤 处 理 剂	一 発 处 理 剂	中 期 剂	使 用 量 m l／10 a	土 壤 混 和 处 理 剂		
1 ～ 2 *	0.7*	—	—	500	89.2		
3	38.1	45.2	43.1	500 ～ 600	4.1		
3 ～ 4	32.0	30.6	34.7	500 ～ 700	2.7		
3.5	}	4.0	0.5	500 ～ 750	4.1		
3 ～ 4.5							
3 ～ 5							
4	15.0	14.5	15.8				
4 ～ 4.5	}	8.2	4.8			5.0	
4.5							
4 ～ 5							
4 ～ 6	}	1.4	0.8			1.0	
5							
計	100	100	100	計	100		

注) *使用量区分は回答のまま表示した。土壌処理剤の使用量を1～2kg/10aと回答した人が0.7%あったことを表わしている。

第6表 粒剤の散布方法別実施割合と10a当り散布時間

散布方法	県 北	県 南	県 西	鹿 行
手 ま き	42% (32分)	27% (26分)	28% (27分)	54% (34分)
手まわし散粒機	52 (17分)	53 (15分)	72 (15分)	30 (21分)
背 負 動 散	4 (—)	17 (—)	1 (—)	16 (—)

背負動散は実施例が少なく問題はあるが単純平均でみると、県南・鹿行が多く、水田内歩行式が多いが、畦畔両側と水田中央1回、畦畔からのみ、パイプダスターも割合としては少ない。

3. 一発処理剤についての農家の意向

一発処理剤について、その効果、今後の普及予想面積は第7表のようである。表の設問1・3はいずれかの記号を、2は、はい、いいえのどちらかを選ぶ方式をとった。

第7表 一発処理剤についての農家の意向

設 問	県 北	県 南	県 西	鹿 行	
1. 初→中期剤の組合せに比べ除草効果が	① 高い ② 同じ ③ 劣る	44人中48% 39 14	27人中63% 22 15	30人中53% 37 10	17人中65% 29 6
2.① 一発処理剤のみで防げる ② 中期剤との組合せが必要	49 - 39 67	29 - 47 60	35 - 54 56	19 - 53 47	
3. 今後の普及予想面積	① 70%< ② 50~70 ③ 30~50 ④ < 30	49 - 22 (27) 41 20 (38) 16 (15)	33 - 61 (48) 18 15 (30) 6 (12)	38 - 47 (40) 34 11 (32) 5 (21)	18 - 67 (64) 22 6 (23) 6 (14)

注) () つきは昭和58年調査、その他は昭和61年。

従来の初→中期の組合せに比べ除草効果が同等か上回るとみている人は、85~90%と高い。しかし、この剤1回のみで防げるとした人は、50%程度かそれ以下で、適正な水管理の行にくい山間部を含む県北では39%と低い。50~60%前後の人は中期剤との組合せが必要とみている。

今後の普及率を50~70%以上と予想する人が60~80%と前回調査に比べ25~40%も高まった。実際、調査の行われた昭和61年に比べ昭和62年には9%も増加し44%になった(第8表)。

第8表 茨城県における除草剤使用面積

	S 61		S 62	
初期剤	49,300ha	52%	40,400ha	46%
一発処理剤	33,600	35	39,200	44
中期剤	40,700	43	34,900	39
計	123,600	130	114,500	129
水稲作付面積	95,300	100	88,600	100

注) 粒剤3.5kg/10a, 乳剤500ml/10aとして出荷量より算出。

4. 除草剤の袋・容器のラベルについての意見

このままで特に意見はないという人もあった

が、字を大きくし
てもらい
たいとの
声が多い。
また、内
容表示が
わかり易
くならな
いかとの
意見もあ

る。若いうちは小さい字でも苦にならないし、除草剤によっては読み易いものもある。普通作農家は高齢化が進んでいるため、ラベルを読むのに苦労している人は少なくない。かくいう私も数年前にある除草剤のラベルの字が読みづらくなった。その際、ほぼ全除草剤のラベルを集めて検討したことがある。改善の余地が大いにあると思われた。改善された点もあるが、使う側の立ち場になって、読みやすく、解りやすく、誤用のないようなラベル作りについて、今一度関係者の配慮を望みたい。

5. お わ り に

草種にあった除草剤が使われている、またはほぼ使われていると回答した人がほぼ 100 %であった。しかし、農試へは、どの除草剤が効くか、との相談が多い。

稲作の低コスト化は必須命題であり、除草経費をいかに下げるかは当然考えなければならない事項である。しかし、現場の多くの農家では

雑草発生に頭を悩ませており、少し高くついてもよく効く除草剤がほしいというのが実状である。

現在ある除草剤を上手に使えば、除草面、コスト面でも農家にとって相当有効となる。技術情報が農家サイドまで十分伝わっていないことを痛感することが少なくない。効率的な伝達を行うにはどうしたらよいだろうか。

細粒剤 T 型噴頭散布機

細粒剤（正式名細粒剤 F）は水に溶かして使う水和剤、乳剤などに比べ効果に遜色なく、持続性の長いことが明らかにされている。水和剤等の 10 a 当り 100 l の散布水量は雨量換算で僅か 0.1 mm であることと対比して、細粒剤が乾燥に特別弱いという間違った考えを指摘しておきたい。

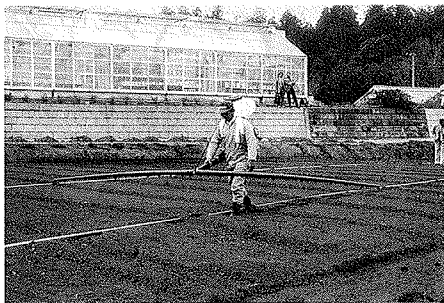
細粒剤は 1 g 当りの粒数が 1.7 ～ 2.2 万粒、見かけの比重は 1.0 以上、10 a 当り 4 ～ 5 kg を均一に散布すれば 1 cm² 当り 7 ～ 11 粒散布される計算となる。細粒剤 1 粒の理論的な除草効

果エリアは土壌水分条件によっても違うが、半径 5 mm 以上といわれている。したがって均一に散布すれば前記した 7 ～ 11 粒は十分な量である。

ここに紹介する T 型噴頭散布機は細粒剤を均一にまくために開発されたものである。散布幅 5 m、散布速度 0.5 m / 秒で 10 a 当り 6 分 30 秒の作業時間となる。実際の作業には 10 分もあればよい。散布精度は高く、その変動係数は風速 3 m 以内で 33 % 以下である。

昭和 62 年に試作機 40 台を各県農試等におくり、散布試験をしていただいた。その結果、約半数の場所からアンケートをいただいたが、約 9 割の場所が実用化できると判断され、散布精度についても約 8 割から合格点もらった。ただ改善事項として、㊦シャッター開度と歩行速度との関係を示すマニュアル作成、㊧薬剤散布確認窓の設置、㊨二重散布防止のための両筒へのコックの設置、などが要望された。これらについては改善の方向に進めるが、是非、本散布機を活用し、細粒剤の効率的利用を進めてもらいたい。

（財）日本植物調節剤研究協会 中山兼徳）



T 型噴頭散布機の散布試験風景
（株）丸山製作所製作

初めに決める
ノックワン。



水田初期除草剤

ノックワン® 粒剤

ノックワン協議会

全国農業協同組合連合会 石原産業株式会社 住友化学工業株式会社 日本農薬株式会社

事務局：石原産業株式会社 〒102 東京都千代田区富士見2-10-30

ノックワン粒剤の特長

1. 広範囲の雑草に有効

ノビエ、コナギなどの一年生雑草はもとより、マツノバイ、ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリなどの多年生雑草まで、広範囲の雑草に極めて高い効果を発揮します。

2. ホタルイに安定した除草効果

広範囲の雑草に安定した効果を示しますが、特にホタルイに対しては種々の条件においても確実な効果を発揮します。

3. 水稻に対して安全

温度条件や土壌条件によって影響されることがほとんどなく、薬害の発生することが極めて少ない除草剤です。

4. 人畜・魚介類に安全

人畜毒性が低く、魚介類に対しても安全性の高い除草剤です。

ハービエースの強さは、小錦の怒濤の寄り！



250g
500g

土から生まれた

バイオ除草剤

明治ハービエース水溶剤

果樹園、野菜畑、桑園、非農耕地に！



明治製薬株式会社

改訂最新除草剤解説 -1987-

企画・編集 日本植物調節剤研究協会
B5判・928頁・定価10,000円(送料500円)

除草剤を利用して、効率的な雑草防除を行なうためには、剤の性質や作用特性をよく理解し、かつ正しい使用法に基いた適正な使用をすることが大切である。本書は現在市販されている主要除草剤114剤(水田54、畑・樹園地40、非農耕地・林地・芝20)について特長(セールスポイント)、上手な使い方、殺草・薬害のメカニズム、使用基準、使用上の注意、適用雑草、性質(成分・構造式・安全性)、試験成績などを図と写真を使って詳しく解説し、併わせて一般的な除草剤の特性と処理法、ならびに使いたい作物や雑草からそれらに適用のある除草剤がすぐわかる便利な索引をつけ、除草剤のことならなんでもわかる、除草剤解説の決定版。

世界の雑草(1) 合弁花類

竹松哲夫・一前宣正著
B5判・712頁・定価38,000円(送料450円)

世界の農耕地には73科415属1,600種、類似種を含めると約6,000種の雑草が発生するといわれている。これらの雑草を知ることは、単に雑草防除という観点のみならず、バイオテクで重要視されている種の保存、また、雑草の有効利用の面からも重要なことである。本書では双子葉植物綱、合弁花亜綱に含まれる16科132属375種(類似種947種付記)について、学名、その他の学名、各国名、語源、分布、形態、繁殖のしかた、生育地、農業上の重要性、類似種、文献を記述し、各科の概説では種の薬用成分、構造式、観賞用の価値、食用の可能性なども併せて解説した。著者47年間の研究成果の集大成である。なお、引続いてII離弁花類、III、IV単子葉植物を発売準備中である。

全国農村教育協会

〒110 東京都台東区台東1-26-6 (植調会館) ☎03(833)1821

Important Weeds of the World

— 4th edition —

(雑草名コード集)

A5判 913頁、定価4,000円(送料500円)

世界の雑草4,700種をあつめた雑草名コンピュータコード集。第4版では当学会から提供した日本の主要雑草742種が登録されました。

本書は雑草各々に学名由来の5文字のコードネームを与え、フルネーム書きの繁雑さを避けると同時に雑草名を世界共通のコードネームに統一することをねらいとしています。欧米各国やアメリカなども雑草登録をすませ、学術誌にこのコードネームを使い始めています。

残部が残り少なくなっています。お早めにお申し込みください。

01792

ERIAN

CO

①

②

③

D

D

E

F

F

J

⑧

④ ERIGERON ANNUUS (L.) PERS.

⑤ STENACTIS ANNUA (L.) LESS. *S

⑥ H:A/P N-AM, AS, EUR ⑦

BERUFKRAUT, FEINSTRAHL-

FEINSTRAHL, ZWEIJAEHRIGER

FLEABANE, ANNUAL

ERIGERON ANNUEL

VERGERETTE ANNUELLE

HIMEJOON

①コード番号

②コードネーム

ERI: Erigeron

AN: annuus

③科名略号 (Compositae)

④学名

⑤学名別名

⑥雑草特性/H: 草本

A/P: 一年生、
または多年生

⑦分布/N-AM: 北アメ

リカ、AS: アジア、

EUR: ヨーロッパ

⑧各国での一般名

雑草学用語集

B5判、200頁

定価3,000円(送料別)

雑草や雑草防除の研究に必要な用語集。

技術用語、雑草、除草剤の項目について解説。

日本雑草学会

販売 全国農村教育協会

東京都台東区台東1-26-6

〒110 ☎電話03-833-1821

昭和62年度水稻作関係

除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和62年度水稻作関係除草剤試験成績中央検討会は、昭和62年12月14～15日の2日間、東京・国労会館において開催された。なお、適1試験は中央検討会に先がけ、昭和62年10月12日植調会館にて開催された。これらの結果の概要を報告する。

1) 第1次適用性試験(適1)試験について

昭和62年度の適1試験は、北海道地域(植調岩見沢試験地)、東北地域(植調古川試験地)、北陸地域(植調新潟第1試験地)、関東地域(植調研究所)、近畿地域(植調滋賀試験地)、中国地域(植調広島試験地)、九州地域(植調佐賀試験地)の全国7地域で54薬剤(のべ330点)について実施した。その判定結果は、第1表のとおりである。

2) 第2次適用性試験(適2)試験について

昭和62年度の適2試験は、次のような試験区分で実施した。すなわち、稚苗移植栽培の移植

前土壌混和处理(Ⅱ-1, 1剤5点)、移植前後土壌処理(Ⅱ-2, 1剤11点)、移植後土壌処理(Ⅱ-3, 41剤494点)、茎葉兼土壌処理(Ⅱ-4, 3剤41点)、適用時期拡大(Ⅱ-5, 8剤104点)、特殊雑草防除(Ⅱ-6, のべ41剤133点)、クログワイ徹底防除(Ⅱ-7, 9剤32点)、湛水直播栽培用(Ⅲ-1, 8剤48点)、乾田直播栽培用(Ⅲ-2, 3剤8点)、畦畔雑草用(Ⅳ, 11剤74点)、耕起前雑草用(Ⅴ, 6剤32点)、体系是正用の初期一発剤(Ⅶ-1, 15剤196点)、初・中期一発剤(Ⅶ-2, 16剤248点)、長期持続型一発剤(Ⅶ-3, 6剤35点)、一発処理剤の補正散布(Ⅶ-4, 7剤42点)の総のべ点数が1,503点であった。これら適2試験の判定結果は第2表、実用化可能と判定された除草剤の使用基準は第3表のとおりである。

第1表 昭和62年度水稻作関係除草剤適1試験成績判定結果一覧表

No.	薬剤名・剤型 (委託会社名)	有効成分および 含有率(%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果概要
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
1.	CG-155B 粒 〔日本チバガイギー〕	プレチラクロール 1 CG-148 0.2 BAS-514 0.7	○			□	○			寒地～温暖地○
2.	CG-155B① 粒 〔日本チバガイギー〕	プレチラクロール 1 CG-148 0.15 BAS-514 0.7	◎	◎	○ (□	□	○	○	○	全域○

No	薬剤名・剤型 〔委託会社名〕	有効成分および 含有率(%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果概要
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
3.	DM-72 粒 〔日本モンサント〕	未公開(既知) 0.25 MON-72(未) 0.4	◎	◎	◎	◎				寒地～温暖地東部○
4.	DM-72① 粒 〔日本モンサント〕	未公開(既知) 0.17 MON-72(未) 0.4			◎	◎	□	◎	□	寒冷地南部・温暖地東部○ 温暖地西部以西□
5.	DPX-65 粒 〔デュポンジャパン〕	新規化合物(未) 0.07	□	◎	△ }	□	○	△	△	全域□(混合母剤として)
6.	DPX-65⑧ 粒 〔デュポンジャパン〕	新規化合物(未) 0.25		○		□		□		全域□(混合母剤として)
7.	DPX-84AS 粒 〔クミアイ化学・デュポン ジャパン・住友化学〕	ベンスルフロンメチル 0.17 ベンチオカーブ 5 プロモブチド 3	□	◎	◎ } ○	◎	○	◎	○	全域○
8.	DPX-84K 粒 〔クミアイ化学・デュポン ジャパン〕	ベンスルフロンメチル 0.25 KUH-871(未) 3	□	◎	◎ } ○	○				寒地□ 寒冷地・温暖地東部○
9.	DPX-84K① 粒 〔クミアイ化学・デュポン ジャパン〕	ベンスルフロンメチル 0.17 KUH-871(未) 2			◎ } ○	◎	○	◎	□	寒冷地南部・温暖地○ 暖地□
10.	DPX-84MS 粒 〔プッシュ研究会(事; 北興化学)〕	ベンスルフロンメチル 0.17 ジメピペレート 6 プロモブチド 3	○	◎	◎ } ○	◎				寒地～温暖地東部○
11.	DPX-84SKH 粒 〔DPX-84SKH研 究会(事; 北興化学)〕	ベンスルフロンメチル 0.25 SKH-301 0.3	◎	□	◎ } ○					寒地・寒冷地□
12.	DPX-84SKH①粒 〔DPX-84SKH研 究会(事; 北興化学)〕	ベンスルフロンメチル 0.17 SKH-301 0.3			◎ } ○	□	○	□	□	寒冷地南部以西□
13.	DPX-84TD① 粒 〔DPX-84TD研 究会(事; デュポン ジャパン)〕	ベンスルフロンメチル 0.17 メフェナセット 3.5 ダイムロン 1.5			◎ } ○	◎	◎	○	□	寒冷地南部以西○
14.	HOK-502 粒 〔北興化学〕	新規化合物(未) 0.3		○	□ } △	□				△(効果・薬害)
15.	HSW-871 粒 〔チバガイギー・北海三 共〕	プレチラクロール 1.5 ピラゾレート 8 ジメタメトリン 0.2	◎	◎						寒地・寒冷地北部◎
16.	KH-243 粒 〔アグロカネショウ〕	KH-218 1.5 ベンゾフェナップ 5 ACN 3	○	◎	○ } □	◎	○	○	○	全域○
17.	KH-244 粒 〔アグロカネショウ〕	KH-218 2 ベンゾフェナップ 5	□	◎	○ } □	○	○	○	○	寒地□ 寒冷地以西○

No.	薬 剤 名・剤 型 〔委託会社名〕	有効成分および 含 有 率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果概要
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
18.	KUH-871 粒 〔クミアイ化学〕	新規化合物(未) 3	△	◎ ↓ ○	○ ↓ □	○	□	○	□	全域□(混合母剤として)
19.	MON-72 粒 〔日本モンサント〕	MON-72(未) 0.4	□	□	○	□	□	◎	□	全国□(混合母剤として)
20.	MT-333 粒 〔三井東圧化学〕	MT-128(未) 4 BAS-514 1 ベンゾフェナップ 5	□	◎ ↓ ○	○	◎	○	◎	○	寒地□ 寒冷地以西○
21.	MY-642 粒 〔三菱油化〕	ジメピペレート 6 ベンゾフェナップ 4 クロメプロップ 2	□	◎	◎ ↓ ○	◎ ↓ ○	○	□	○	寒地□ 寒冷地以西○(ミズガヤツリを除く)
22.	MY-93FS 粒 〔三菱油化〕	ジメピペレート 6 クロメプロップ 2 プロモブチド 4	□	○	◎ ↓ ○	◎ ↓ ○	○	□	◎	全域○
23.	NC-311H 粒 〔日産化学・保土谷化学〕	NC-311 0.07 HW-52 5	◎	◎ ↓ ○	◎	◎	○	○	◎	全域○
24.	NC-311K 粒 〔日産化学・徳山曹達〕	NC-311 0.07 NSK-850 0.9	□	○	◎	□	□	○	□	全域□
25.	NC-316 粒 〔日産化学工業〕	NC-311 0.07 未公開(既知) 3.5	○	◎	◎	◎	◎	□	○	全域○
26.	NC-317 粒 〔日産化学・住友化学〕	NC-311 0.07 BAS-514 0.9 プロモブチド 3	◎	◎	◎	◎	□	○	○	全域○
27.	NCM-72 粒 〔日本モンサント〕	未公開(既知) 0.07 MON-72(未) 0.4	○	○	◎ ↓ ○	◎	○	◎	○	全域○
28.	NCT-318 粒 〔日産化学・東ソー〕	NC-311 0.07 BAS-514 0.9 TSH-888 3	◎	◎	◎ ↓ ○	◎	◎	○	○	全域○～◎
29.	NC-YH 粒 〔日産化学・八洲化学〕	NC-311 0.07 モリネート 6 プロモブチド 3	○	◎	○ ↓ ○	◎ ↓ ○	□	○	□	寒地～温暖地東部○ 温暖地西部以西□
30.	NSK-850S 粒 〔徳山曹達・三共化学〕	NSK-850 0.75 ピラゾレート 6	□	◎	□	□	○	○ ↓ □	□	全域□
31.	NTN-806① 粒 〔日本特殊農薬〕	メフェナセット 4 シメトリン 1.5 MCPB 0.8	○	○	○ ↓ □	□	□	○	□	寒地・寒冷地○ 温暖地以西□
32.	RM-820フロアブル 〔ローヌプーランagro・三菱油化〕	オキサジアゾン 8 ベンゾフェナップ(MY-71) 20	△	○	×	○	○	○	□	寒地・寒冷地□ 温暖地○, 暖地□
33.	2S 粒 〔シェル化学・三共〕	SKH-301 0.2 ピラゾレート 6	□	□	□	○	○	□	□	寒地・寒冷地□ 温暖地東部○, 温暖地西部以西□

No.	薬 剤 名 ・ 剤 型 〔委託会社名〕	有効成分および 含 有 率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定 結果概要
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
34.	3 S 粒 〔シェル化学・三共〕	SKH-301 0.2 ピラゾレート 4 プロモブチド 4	△	×	△	△	△	△ } ×	△	全域△(薬害)
35.	SKH-301 粒 〔SKH-301研究会 (事; シェル化学)〕	SKH-301 0.2	□	□	□	□	□	□	△	全域□(混合母剤として)
36.	SKH-8602 粒 〔日産化学・シェル化学〕	NC-311 0.07 SKH-301 0.3	□	△	○	□	○	□	△	全域□
37.	SL-653 粒 〔SL-49研究会(事; 石原産業)・シェル化学〕	ピラゾキシフェン 5 SKH-301 0.2 未公開(既知) 1.5	○	□	○	□	□	□	△	全域□
38.	SL-654 粒 〔石原産業〕	新規化合物(スルホニル ウレア系) 0.1	○	◎ } ○	◎ } ○	○	○	○	□	全域□(混合母剤として)
39.	SL-655 粒 〔石原産業〕	SL-654(未) 0.1 BAS-514 1	◎	◎	○	◎	○	○	□	寒地～温暖地○ 暖地□
40.	SL-656 粒 〔石原産業〕	SL-654(未) 0.1 未公開(既知) 7	○	◎	◎ } ○	◎	◎	○	□	寒地～温暖地○ 暖地□
41.	SLT-651 粒 〔SL-49研究会・住 友友化学・東ソー〕	ピラゾキシフェン 5 プロモブチド 4 TSH-888 3.5	□	◎	◎ } ○	◎ } ○	○	○	○	寒地□ 寒冷地以西○
42.	SLT-657 粒 〔石原産業・東ソー〕	SL-654(未) 0.1 BAS-514 0.7 TSH-888 3	○	◎	◎ } ○	◎	○	○	○	全域○～◎
43.	SM-15 粒 〔シェル化学・三菱油化〕	SKH-301 0.2 クロメブロップ(MY- 15) 1.5	△	□	○ } □	□	○	△	□	全域□
44.	SM-71 粒 〔SM-71研究会(事; 三菱油化)〕	SKH-301 0.2 ベンゾフェナップ(MY- 71) 5	△			□		□	□	全域□
45.	SM-715 粒 〔シェル化学・三菱油化〕	SKH-301 0.2 クロメブロップ 1.5 ベンゾフェナップ 4	△	□	○	○	○	△	□	全域□
46.	SMS-15 粒 〔シェル化学・三菱油化〕	SKH-301 0.2 クロメブロップ 1.5 プロモブチド 4	◎	×		□		△	△	寒地□ 寒冷地以西△(薬害)
47.	SMS-71 粒 〔シェル化学・三菱油化〕	SKH-301 0.2 ベンゾフェナップ 4 プロモブチド 4	◎	×		□		△ } ×	□	寒地□ 寒冷地以西△(薬害)
48.	SUM-72 粒 〔住友化学・日本モンサ ント〕	プロモブチド 4 MON-72(未) 0.4	◎	◎	◎ } ○	○	□	◎	□	寒地～温暖地東部○(ウリカワを 除く), 温暖地西部・暖地□

No.	薬 剤 名・剤 型 〔委託会社名〕	有効成分および 含 有 率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果概要
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
49.	TH-913A 粒 〔武田薬品工業〕	TH-913(未) 0.25 未公開(既知) 1	◎	◎	◎ ↓ ○	◎	○	◎	○	全域○
50.	TSJ-715 粒 〔徳山曹達・カーリット〕	NSK-850 0.75 JC-940 5 クロメプロップ 1.5		◎		□		□	△	寒冷地以西□
51.	TSM-612 フロアブル 〔東ソー・住友化学・三菱油化〕	TSH-888 6 プロモブチド 10 ベンゾフェナップ 12	(△)	◎ ↓ ○	◎ ↓ ○	◎	○	◎	○	寒冷地以西○～◎
52.	TSS-344 粒 〔東ソー・三共・住友化学〕	TSH-888 3.5 ピラゾレート 4 プロモブチド 4	□	◎	○ ↓ □	◎	○	◎	○	寒地□ 寒冷地以西○
53.	TTS-374 粒 〔東ソー〕	TSH-888 3.5 ナプロアニリド 7 プロモブチド 4	□	◎	○ ↓ □	○	○	□	□	寒地□, 寒冷地・温暖地東部○ 温暖地西部以西□
54.	Y-873 粒 〔山本農薬〕	ブタミホス 3.5 プロモブチド 3	○	◎	◎ ↓ ○	○	○	○	○	全域○(一年生雑草, マツバイ, ホタルイ対象)

注) 上記判定欄の記号については, ◎; 極めて有望, ○; 有望, □; 可能性あり, △; 再検討, ×; 見込なし, を表わす。

第2表 昭和62年度水稲作関係除草剤適2試験成績判定結果一覧表

判 定 区 分	実	実 ・ 継	継	継?	中止
II-1. 土壤混和処理		SRFフロアブル.			
II-2. 移植前後土壤処理		JC-513粒.			
II-3. 移植後土壤処理	ACN粒, プロメトリン粒.	CG-113D粒, CGM-15 粒, KH-218粒, MSS- 148粒, MSS-148◎粒, MT-332粒, MT-CG◎D 粒, MY-642粒, MY-93 ES粒, NSK-85M粒, RP J-841粒, SL-495粒, SL-496◎粒, SL-498 粒, SL-652粒, SLT- 651粒, STS-735粒, T SH-355粒, TSJ-756 粒, TSS-344粒, Y-873 粒, CG-155B粒, CG- 155B◎粒, DPX-84A粒, DPX-84AS粒, NC-311 G粒, NC-311M粒, NC- 311R粒, ◎CG-SW◎S粒, DPX-84CG粒, HSW-871粒, KSS粒, DPX-84SC粒.	MON-72粒, MY-93FS粒, NSK-850粒, SKH-301粒, SUM-72粒, TJM-354粒, TSM-612フロアブル, DPX-84SKH粒, DPX-84SKH◎粒, NCM-72粒.		

判定 区分	実	実・継	継	継?	中止
II-4. 茎葉兼土壌処理		BAS-521粒, BAS-521水和, NTN-806㊦粒.			
II-5. 適用時期拡大		BAS-521粒, BAS-521水和, CG-SW㊦D粒, DPX-84A粒, DPX-84A㊦粒, NC-311粒, NTN-806㊦粒, S-28H粒.			
II-6-(1) クログワイ対象			(有効であるので, 徹底防除の項で継続検討) BAS-3510(Na)㊦液, BAS-521水和, DPX-84粒, DPX-84B粒, DPX-84B㊦粒, DPX-84CG粒, DPX-84CG㊦粒, DPX-84SC㊦粒, NC-311粒, NC-311B㊦粒, NC-311R粒, NC-YH粒. (徹底防除-試験継続中) BAS-3510(Na)㊦液, DPX-84粒, DPX-84A粒, DPX-84A㊦粒, DPX-84M粒, DPX-84M㊦粒, DPX-84SC粒, DPX-84T㊦粒, NC-311粒.		
II-6-(2) オモダカ対象		BAS-3510(Na)㊦液, BAS-521粒, DPX-84粒, NC-311粒, NC-311B㊦粒.			
II-6-(3) セリ対象		BAS-521粒, BAS-521水和, NC-311粒, NC-311B㊦粒.			
II-6-(5) シズイ対象		BAS-521粒, BAS-521水和, DPX-84SC粒.	DPX-84粒, DPX-84B粒, DPX-84CG粒, NC-311粒, NC-311B㊦粒, NC-311R粒.		
II-6-(6) エゾノサヤヌカグサ対象		DPX-84B粒, DPX-84CG粒, DPX-84SC粒, NC-311B㊦粒, NC-311R粒.			
II-6-(8) コウキヤガラ対象		BAS-3510(Na)㊦液, DPX-84SC㊦粒.	DPX-84A粒, DPX-84M粒, DPX-84SC粒, DPX-84T粒.		
III-1. 湛水直播		CG-SW㊦(改)粒, DPX-84A㊦粒, DPX-84M㊦粒, MY-93E粒, SL-496㊦(改)粒, SL-708粒,	DPX-84SC㊦粒, NC-311H粒.		
III-2. 乾田直播		HW-61水和.	DPX-84M㊦粒, HOK-05M粒.		
IV 畦畔雑草		DDX水和, グリホサート液, グリホサート水溶, Hoe-866液,	改良C-MH液.		

判定 区分	実	実・継	継	継?	中止
IV 畦畔雑草(つづき)		HOK-15①細粒, MON-8794液, MR-28液, MW-831水溶, MW-DC水和, YF-65①液.			
V 耕起前	YF-65①液.	グリホサート液, グリホサート水溶, Hoe-866液, MON-8794液, MW-831水溶.			
VII 体系是正		CG-SW①D粒, CG-SW①S粒, DPX-84A①粒, DPX-84CG粒, DPX-84CG①粒, DPX-84M①粒, KSS粒, PSS粒, S-473①粒, SL-495粒, TSM-344粒, DPX-84A粒, DPX-84M粒.	HSW-871粒, PSS①粒.		
VII-2. 初・中期一発処理剤		BSS粒, DPX-84B粒, DPX-84B①粒, DPX-84SC粒, DPX-84SC①粒, DPX-84T粒, DPX-84T①粒, DPX-84TD①粒, FSS-115粒, NC-311B①粒, SL-641粒, YH-453粒.	NC-317粒, NCT-318粒, NC-YH粒, SL-655粒.		
VII-3. 長期持続型一発処理剤		NH-725粒.	DPX-84AS粒, DPX-84AS①粒, DPX-84MS粒, NH-726粒, TSM-344①粒.		
VII-4-(1) 一発処理剤の補正散布法	DPX-84A粒, DPX-84M粒.				
VII-4-(2) 補正散布(初期)	ブタクロール2.5粒, MO-338粒, MTS-1粒, G-315乳, G-315B乳.				

注: 1) 本年度新規に使用基準の作成されたものは、薬剤名にアンダーラインを記した。
2) 本年度は「継?」および「中止」と判定された薬剤はなかった。

第3表 昭和62年度水稻作関係除草剤使用基準一覧表

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II-1. 稚苗土壌混和処理	① SRFフロアブル	土壌混和処理	全域の普通期.	一年生雑草・マツバイ.	植代時整地板前 (-7~-4) 〔但し、寒地・暖地は-4のみ.〕	50 ml/a	砂壌土~埴土(2cm/日以下) 〔但し、暖地は(1.5cm/日以下). 寒地の砂壌土は(1.5	(1) 混和時の水深3~5cm. (2) 混和深2~3cm. (3) 吸着の悪い土壌(砂壌土, 腐植含量の少ない土壌)では水の動きの少ない場合は

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ-1. (つづき)							cm/日以下). 温暖地東部は砂壌土を除く.	葉害の発生の危険があるので十分注意する.
Ⅱ-2. 移植前後土壌処理	① JC-513 粒	土 壌 処 理	温暖地以北の普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ 〔但し、ミズガヤツリは寒冷地・温暖地東部のみ、ヘラオモダカは寒冷地北部以北のみ.〕	-5~-4, +3~+5 (ノビエ1Lまで) 〔但し、寒冷地南部、温暖地西部(近畿・中国)は+3~+5のみ.〕 ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで.	300 g/a	砂壌土~埴土(2cm/日以下) 〔但し、砂壌土は寒冷地南部・温暖地西部(近畿・中国)のみ. 温暖地西部は(1.5cm/日以下).〕	(1) 深水での処理はさける.
Ⅱ-3. 移植後土壌処理	① CG-113 D粒 (パレージ)	土 壌 処 理	全域の <u>早期・普通期</u> .	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・アオミドロ・表層剥離. 〔但し、ミズガヤツリは寒冷地・温暖地のみ. ヘラオモダカは温暖地東部以北の普通期のみ. 表層剥離は暖地普通期を除く.〕	+3~ノビエ1.5Lまで. ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで. 〔但し、温暖地東部普通期のミズガヤツリは発生前.〕 アオミドロ・表層剥離; 発生前. 〔但し、寒地・温暖地西部早期は発生前~始.〕	300 g/a	砂壌土~埴土(2cm/日以下). 〔但し、寒地の砂壌土は(1.5cm/日以下). 温暖地東部早期・温暖地西部・暖地早期は砂壌土を除く. 暖地普通期は埴壌土~埴土.〕	
	② CGM-15 粒 (センチ*)	土 壌 処 理	全域の <u>早期・普通期</u> . 〔但し、暖地の早期は除く.〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ. 〔但し、ウリカワは暖地のみ, ミズガヤツリは温暖地東部普通期・温暖地西部(四国普通期を除く)・暖地のみ. ヘラオモダカは温暖地東部以北の普通期のみ.〕	±3~ノビエ1.5Lまで. ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで. 〔但し、寒地・温暖地西部普通期のホタルイ, 寒地のヘラオモダカは2Lまで.〕 ウリカワ; 2Lまで.	300 g/a	埴土~埴土(2cm/日以下). 〔但し、温暖地西部(近畿・中国)の普通期・暖地は(1.5cm/日以下). 温暖地の早期・温暖地西部(四国)の普通期は(1cm/日以下).〕 砂壌土(1.5cm/日以下). 〔但し、寒地・暖地	

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ-3. 移植後土壌処理 (つづき)	② CGM-15 粒 (つづき)						の普通期のみ。 温暖地西部は(1cm/日以下)。	
	③ KH-218 粒	土壌処理	寒冷地北部・温暖地の普通期。 〔但し、温暖地西部は四国を除く。〕	一年生雑草・マツバイ。	+3～ノビエ1.5Lまで。 〔但し、寒冷地・温暖地東部は+3～+7(ノビエ1Lまで)〕	300 g/a	壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部は(1cm/日以下)〕	(1) コナギ多発田では早目に使用する。
	④ MSS-148 粒 (ピリカーナ)	土壌処理	温暖地西部以西の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ。 〔但し、ミズガヤツリは暖地普通期のみ。〕	+5～ノビエ2Lまで。 ホタルイ; 2Lまで。 〔但し、暖地は発生始まで。 ミズガヤツリ; 発生始まで。〕	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部の早期は埴土～埴土(1cm/日以下)。 温暖地西部の普通期は埴土～埴土(近畿・中国1.5cm/日以下、四国1cm/日以下)〕	(1) 広葉多発田での使用はさける。 (2) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
	⑤ MSS-148 ①粒	土壌処理	暖地の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ。	+5～ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ; 発生始まで。	300 g/a	埴土～埴土(1cm/日以下)。	(1) 広葉多発田での使用はさける。
	⑥ MT-332	土壌処理	全域の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。〕	+3～ノビエ1.5Lまで。 〔但し、寒冷地以北は+5～ノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで。 〔但し、温暖地(四国を除く)のホタルイは2Lまで。〕	300 g/a	砂壤土～埴土(1.5cm/日以下)。 〔但し、砂壤土は暖地のみ。 温暖地東部以北は埴土～埴土(2cm/日以下)〕	(1) 田植前に生育したミズガヤツリは完全に防除してから使用する。
	⑦ MT-CG ①D粒 (ヨートルD)	土壌処理	全域の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・アオミドロ・表層剥離・ウキクサ。 〔但し、ウリカワ〕	+3～ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 〔但し、早期・温暖地西部以西の普通期のホタ	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、暖地普通期は(1.5cm/日以下)。 寒地・温	

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II-3. 移植後土壌処理 (つづき)	⑦ MT-CG ①D粒 (つづき)			は寒地・暖地の普通期のみ。ミズガヤツリは寒冷地・温暖地の普通期・温暖地西部以西の早期のみ。ヘラオモダカは寒冷地以北・温暖地西部の普通期のみ(四国を除く)。ウキクサは温暖地西部の普通期のみ(四国を除く)。アオミドロ・表層剥離は暖地の早期を除く。	ルイは発生始まで。温暖地西部(近畿・中国)のヘラオモダカは発生始まで。ミズガヤツリ; 発生始まで。 〔但し、温暖地西部の早期は2Lまで。〕 アオミドロ・表層剥離; 発生前。 〔但し、寒地は発生前〜始まで。〕 ウキクサ; 発生前。		暖地西部普通期(近畿・中国)の砂壤土は(1.5cm/日以下)。寒冷地・温暖地西部普通期(四国)は(1cm/日以下)。温暖地東部普通期・暖地の早期は壤土〜埴土(2cm/日以下)。温暖地の早期は埴土〜埴土(1cm/日以下)。	
	⑧ MY-642 粒	土 壌 処 理	温暖地以西の普通期。 〔但し、温暖地西部は四国のみ。〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ヒルムシロ。 〔但し、ヒルムシロは暖地を除く。〕	+3〜ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ; 発生始まで。 ウリカワ; 2Lまで。 〔但し、温暖地東部は発生始まで。〕 ヒルムシロ; 発生前。	300 g/a	埴土〜埴土(2cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部は(1cm/日以下)。〕 暖地は埴土〜埴土(1cm/日以下)。	
	⑨ MY-93 ES粒	土 壌 処 理	全域の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは温暖地以西のみ。オモダカは温暖地西部のみ。ヘラオモダカは寒冷地北部以北のみ。ヒルムシロは寒冷地を除く。〕	+1〜ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで。 〔但し、温暖地のホタルイ・温暖地西部のウリカワは2Lまで。温暖地西部のミズガヤツリは発生前。〕 オモダカ; 発生前。 ヒルムシロ; 発生前。 〔但し、寒地・暖地は発生始まで。〕	300 g/a	砂壤土〜埴土(2cm/日以下)。 〔但し、暖地は(1.5cm/日以下)。〕 寒地の砂壤土は(1.5cm/日以下)。寒冷地北部・温暖地東部は埴土〜埴土(2cm/日以下)。 温暖地西部は埴土〜埴土(1cm/日以下)。	(1) 泥炭質土壌ではウリカワに対する効果が低下することがある。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ — 3. 移植後土壌処理（つつき）	⑩ NSK-85 M粒	土 壌 処理	寒地・温暖 地西部の普 通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ. 〔但し、ミズガヤ ツリは温暖地西 部（四国）のみ。 ヘラオモダカ・ ヒルムシロは寒 地のみ。〕	+3～ノビエ2 L まで。 〔但し、温暖地西 部（近畿・中国） は+5～ノビエ 2 Lまで。 ホタルイ・ミズガ ヤツリ；発生始ま で。 ウリカワ・ヘラオ モダカ；2 Lまで。 ヒルムシロ；発生 期。〕	300 g/a	壤土～埴土 （2 cm/日 以下）。 〔但し、温 暖地西部 は（1 cm /日以下）。〕	(1) ホタルイ・コ ナギ多発田では 早目に使用する。 (2) 泥炭質土壌で はウリカワに対 する効果が低下 することがある。 (3) ホタルイ多発 田では、ホタル イに有効な中・ 後期剤との組合 わせで使用する。
	⑪ RPJ-841 粒	土 壌 処理	寒冷地・温 暖地の普通 期、温暖地 東部の早期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ。 〔但し、ホタルイ は温暖地東部を 除く。〕	+3～+10（ノビ エ1 Lまで）。 〔但し、温暖地の 普通期は+3～ +5、早期は+ 3～+7。 ホタルイ・ウリカ ワ；発生始まで。〕	300 g/a	壤土～埴土 （2 cm/日 以下）。 〔但し、温 暖地西部 は（1 cm /日以下）。 温暖地東 部は埴土 ～埴土 （早期1 cm/日以 下、普通 期2 cm/ 日以下）。〕	(1) マツバイ多発 田での使用はさ ける。
	⑫ SL-495 粒 （ノックワン）	土 壌 処理	全域の早期 ・普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒冷地・ 温暖地西部普通 期・暖地早期の み。ヘラオモダ カは寒地・寒冷 地・温暖地西部 普通期のみ。ヒ ルムシロは寒冷 地・温暖地西部・ 暖地普通期のみ。〕	+1～ノビエ1.5 Lまで。 〔但し、寒地は+ 1～+10（ノビ エ1 Lまで）。 寒冷地は+3～ +10（ノビエ1 Lまで）。温暖 地は+3～ノビ エ1.5 Lまで。 ホタルイ・ヘラオ モダカ；2 Lまで。 〔但し、寒冷地以 北は発生始まで。〕 ウリカワ；2 Lま で。 〔但し、寒冷地以 北は発生始まで。〕 ミズガヤツリ；2 Lまで。 ヒルムシロ；発生 期。〕	300 g/a 〔但し、温 暖地東部 は300～ 400。〕	砂壤土～埴 土（2 cm/ 日以下）。 〔但し、暖 地早期は （1.5 cm /日以下）。 寒地の砂 壤土は （1.5 cm /日以下）。 温暖地東 部は砂壤 土を除く。 温暖地西 部の早期 は埴土 （1 cm/ 日以下）。 暖地普通 期は埴土 ～埴土 （1.5 cm /日以下）。〕	(1) 泥炭質土壌で は、ウリカワに 対する効果が低 下することがあ る。 (2) 著しい高温条 件下の砂壤土水 田ではクロロシ スの発生するこ とがあるので注 意する。
	⑬ SL-496 ①粒 （ワンオール）	土 壌 処理	全域の早期・ 普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く。〕	+0～ノビエ2 L まで。 〔但し、寒地は+ 3～ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ヘラオモダカ；	g/a 300～400 〔但し、+ 0～+2 は300の み。〕	砂壤土～埴 土（2 cm/ 日以下）。 〔但し、温 暖地西部 （近畿・ 中国）普	(1) 泥炭質土壌で は、ウリカワに 対する効果が低 下することがあ る。 (2) 著しい高温条 件下の砂壤土水

区分	薬 剂 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
II 1. 移植後土壌処理 (つづき)	⑬ SL-496 ①粒 (つづき)			く、ヘラオモダカは温暖地東部以北のみ。ヒルムシロは温暖地西部以西の早期を除く。	2 Lまで。 〔但し、寒地は発生始まで。 ミズガヤツリ；発生始まで。 〔但し、暖地早期〕は2 Lまで。 ヒルムシロ；発定期。		通期の砂壤土は(1.5 cm/日以下)。暖地の砂壤土は(1 cm/日以下)。寒地・寒冷地北部・温暖地西部(四国)の普通期は砂壤土を除く。温暖地西部の早期は埴壤土(1 cm/日以下)。暖地普通期は砂壤土(1 cm/日以下)。・壤土～埴土(1.5 cm/日以下)。	田ではクロロシスの発生することがあるので注意する。
	⑭ SL-498 粒	土 壌 処 理	寒冷地以西の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離・ウキクサ。 〔但し、ミズガヤツリは暖地普通期を除く。ヘラオモダカは寒冷地のみ。ヒルムシロは温暖地東部早期・暖地早期を除く。ウキクサは温暖地東部普通期のみ。アオミドロは温暖地東部普通期を除く。表層剥離は温暖地東部普通期・暖地早期を除く。〕	+ 3 ～ ノビエ 2 L まで。 〔但し、寒冷地北部はノビエ 1.5 L まで。 ホタルイ；2 L まで。 〔但し、寒地は発生始まで。 ウリカワ；2 L まで。 〔但し、暖地普通期は発生始まで。〕 ミズガヤツリ；発生始まで。 〔但し、寒冷地・温暖地西部早期〕は2 L まで。 ヘラオモダカ；2 L まで。 ヒルムシロ・ウキクサ；発定期。 アオミドロ・表層剥離；発生前。 〔但し、温暖地西部の早期は発生前～始。暖地のアオミドロは発定期。〕	300 g/a	砂壤土～埴土(2 cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部以西は(1.5 cm/日以下)。寒冷地北部は砂壤土を除く。温暖地西部の早期は埴土～埴土(1 cm/日以下)。	(1) 泥炭質土壌ではウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下の砂壤土水田ではクロロシスの発生することがあるので注意する。 (3) トリアジン系除草剤の使用上の注意を守る。
	⑮ SL-652 粒	土 壌 処 理	温暖地東部・暖地の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガ	+ 3 ～ ノビエ 1.5 L まで。 〔但し、温暖地東	300 g/a	砂壤土～埴土(1.5 cm/日以下)。	(1) トリアジン系除草剤の使用上の注意を

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 1. 移植後土壌処理（つづき）	⑮ <u>SL-652</u> 粒 (つづき)			ヤツリ・ヒルムシロ・アオミドロ。 〔但し、ヒルムシロ・アオミドロは暖地のみ。〕	部は+3～+5（ノビエ1Lまで）。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ；発生始まで。 〔但し、暖地のホタルイ・ウリカワは2Lまで。〕 アオミドロ；発生期。		〔但し、温暖地東部は埴土～埴土（2cm/日以下）。〕	守る。 (2) 著しい高温条件下の砂埴土ではクロロシスの発生することがあるので注意する。 (3) 田植前に生育したミズガヤツリは完全に防除してから使用する。
	⑯ <u>SLT-651</u> 粒	土壌処理	暖地の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは早期のみ。ヒルムシロは普通期のみ。〕	+3～ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ；2Lまで。 ヒルムシロ；発生始まで。	300 g/a	砂埴土～埴土（1.5cm/日以下）。	
	⑰ <u>STS-735</u> 粒	土壌処理	寒冷地・温暖地の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、アオミドロ・表層剥離は温暖地西部のみ。〕	+3～+7（ノビエ1Lまで）。 〔但し、温暖地西部は+3～+5〕 ホタルイ；発生始まで。 アオミドロ・表層剥離；発生前。	300 g/a	埴土～埴土（2cm/日以下）。 〔但し、温暖地西部（近畿・中国）は（1.5cm/日以下）。（四国）は埴土～埴土（1cm/日以下）。〕	(1) コナギ多発田では早目に処理する。 (2) 広葉多発田での使用はさける。
	⑱ <u>TSH-355</u> 粒 (オリザガード*)	土壌処理	全域の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ。 〔但し、ミズガヤツリは寒冷地北部・温暖地のみ。〕	+3～ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ；2Lまで。 〔但し、寒冷地・温暖地西部（四国）は発生始まで。〕 ミズガヤツリ；発生始まで。	300 g/a	砂埴土～埴土（2cm/日以下）。 〔但し、温暖地西部は（1cm/日以下）。〕 寒地の砂埴土は（1.5cm/日以下）。 寒冷地・温暖地東部・温暖地西部（四国）は砂埴土を除く。	(1) 広葉多発田での使用はさける。
	⑲ <u>TSJ-756</u> 粒	土壌処理	寒地・寒冷地・温暖地西部以西の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ。	+3～ノビエ1.5Lまで。 〔但し、温暖地西部（近畿・中国）〕	300 g/a	埴土～埴土（2cm/日以下）。 〔但し、温	

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅱ 1. 移植後土壌処理（つづき）	①⑨ TSJ-756 粒 (つづき)			〔但し、ミズガヤツリは寒冷地・温暖地西部のみ。ヘラオモダカは寒地・寒冷地北部のみ。〕	〔は+5～ノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ；発生始まで。		〔温暖地西部以西は（1cm/日以下）。温暖地西部は砂壌土（1cm/日以下）を含む。〕	
	②⑩ TSS-344 粒	土 壌 処 理	寒冷地・暖地の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ウリカワは寒冷地北部・暖地のみ。ミズガヤツリ・ヒルムシロは暖地のみ。ヘラオモダカは寒冷地北部のみ。〕	+3～ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ；2Lまで。 ヒルムシロ；発生始まで。	300 g/a	砂壌土～埴土（1.5cm/日以下）。 〔但し、寒冷地は埴土～埴土（2cm/日以下）。〕	(1) 田植前に生育したミズガヤツリは完全に妨除してから使用する。
	②⑪ Y-873 粒	土 壌 処 理	寒冷地・温暖地東部・暖地の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・	+3～ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ；2Lまで。 〔但し、寒冷地北部・温暖地東部は発生始まで。〕	300 g/a	埴土～埴土（2cm/日以下）。 〔但し、温暖地東部は砂壌土（1.5cm/日以下）を含む。暖地は埴土～埴土（1.5cm/日以下）。〕	
	②⑫ CG-155 B粒	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ。	+5～ノビエ2Lまで。 ホタルイ・ヘラオモダカ；2Lまで。	300 g/a	埴土～埴土（2cm/日以下）。	
	②⑬ CG-155 B①粒	土 壌 処 理	全域の早期・普通期。 〔但し、寒冷地南部を除く。〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ。 〔但し、ウリカワは温暖地西部のみ（近畿・中国の普通期を除く）。ミズガヤツリは温暖地以西の早期・温暖地東部の普通期のみ。ヘラオモダカは寒地・寒冷地北部のみ。〕	+5～ノビエ2Lまで。 〔但し、暖地は+5～ノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ；2Lまで。 〔但し、温暖地東部のミズガヤツリは発生前。ウリカワ；発生始まで。〕	300 g/a	埴土～埴土（2cm/日以下）。 〔但し、温暖地西部は（1cm/日以下）。（近畿・中国の普通期）は埴土を除く。温暖地東部の早期は砂壌土～埴土（1cm/日以下）。暖地の早	

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅱ ― 3. 移植後土壌処理 (つづき)	㉓ CG-155 B①粒 (つづき)						期は壇 土～壇 土(1.5cm /日以下). 暖地の普 通期は壇 土～壇 土(2cm /日以下).	
	㉔ DPX-84 A 粒 (ウルフ25)	土 境 処 理	全域の普通 期・温暖地 東部の早期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ・ヒルム シロ・エゾノサヤ ヌカグサ・シズイ・ アオミドロ・表層 剥離. 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く. オモダカは 寒冷地・温暖地 東部普通期のみ. ヘラオモダカ・ アオミドロ・表 層剥離は寒冷地 以北のみ. クロ グワイ・シズイ は寒冷地のみ. ヒルムシロは寒 地・寒冷地・温 暖地西部のみ. エゾノサヤヌカ グサは寒地のみ.〕	+5～ノビエ2L まで. 〔但し、寒地はノ ビエ1.5Lまで.〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで. オモダカ・クログ ワイ・ヒルムシロ; 発生始まで. エゾノサヤヌカ グサ; 1～4L(草 丈20cm以下). シズイ; 草丈2～ 3cmまで. アオミドロ・表層 剥離; 発生前.	g/a 300～400 〔但し、400 はシズイ のみ.〕	壇土～壇土 (2cm/日 以下). 〔但し、暖 地は壇土 ～壇土 (2cm/ 日以下).〕	(1) 著しい多雨条 件では、除草効 果が低下する場 合があるので使 用はさしひかえ る. (2) クログワイ防 除は、クログワ イに有効な後期 剤との組み合わせ で使用する.
	㉕ DPX-84 AS 粒	土 境 処 理	寒冷地以西 の普通期・ 暖地の早期. 〔但し、温 暖地西部 の四国は 除く.〕	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ・ アオミドロ・表層 剥離. 〔但し、ヘラオモ ダカは寒冷地北 部のみ. ヒルム シロは温暖地東 部・暖地の普通 期のみ. アオミ ドロ・表層剥離 は寒冷地・温暖 地西部のみ.〕	+3～ノビエ1.5 Lまで. 〔但し、温暖地西 部以西は+5～ 1.5Lまで.〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで. ヒルムシロ; 発生 始まで. アオミドロ・表層 剥離; 発生前.	300 g/a	砂壇土～壇 土(1.5cm /日以下). 〔但し、暖 地早期の 砂壇土は (1cm/ 日以下). 温暖地以 北は壇土 ～壇土(2 cm/日以 下). 温暖 地西部 は壇土～ 壇土(1 cm/日以 下).〕	
	㉖ NC-311 G 粒	土 境 処 理	全域の普通 期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・セリ. 〔但し、ウリカワ〕	+3～ノビエ1.5 Lまで. 〔但し、温暖地西 部(近畿・中国)・ 暖地は+3～+ 5(ノビエ1L	300 g/a	砂壇土～壇 土(2cm/ 日以下). 〔但し、温 暖地西部 は(1cm	(1) 深水での処理 はさける.

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 1. 3. 移植後土壌処理 (つづき)	②⑥ NC-311 G粒 (つづき)	土壌 処理		は暖地を除く。 ミズガヤツリは 寒冷地・温暖地 のみ。ヘラオモ ダカは寒地・寒 冷地北部・温暖 地西部のみ(四 国を除く)。セ リは温暖地西部 のみ(四国を除 く)。	〔まで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで。 〔但し、寒冷地・ 温暖地西部(四 国)・暖地のホ タルイ、寒冷地 ・温暖地東部・ 温暖地西部(四 国)のウリカワ、 寒冷地南部・温 暖地東部・温暖 地西部(四国) のミズガヤツリ、 寒冷地北部・温 暖地西部(近畿 ・中国)のヘラ オモダカは発生 始まで。 セリ; 再生前~始 まで。〕		〔日以下〕。 暖地の砂 壤土は(1 cm/日以 下)。温 暖地東部 以北・温 暖地西部 (四国) は砂壤土 を除く。〕	
	②⑦ NC-311 M粒	土壌 処理	全域の普通 期・温暖地 の早期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・セリ。 〔但し、ウリカワ は暖地を除く。 ミズガヤツリは 寒冷地南部以西 のみ。ヘラオモ ダカは寒冷地以 北のみ。セリは 温暖地西部(近 畿・中国)の普 通期のみ。〕	+5~ノビエ2L まで。 〔但し、寒地・温 暖地東部普通期・ 温暖地西部(四 国)普通期は+ 5~ノビエ1.5 Lまで。暖地は +2~ノビエ2 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで。 〔但し、寒冷地の ホタルイ・ウリ カワ・ヘラオモ ダカと暖地のホ タルイ・ミズガ ヤツリは発生始 まで。 セリ; 再生前~始 まで。〕	300 g/a	砂壤土~埴 土(2cm/ 日以下)。 〔但し、温 暖地西部 (近畿・ 中国)普 通期・暖 地は(1.5 cm/日以 下)。寒 地の砂壤 土は(1.5 cm/日以 下)。寒 冷地北部 は砂壤土 を除く。 温暖地西 部(四国) 普通期は 埴土~埴 土(1cm/ 日以下)。 温暖地普 通期は埴 土~埴 土(1cm/ 日以下)。	(1) ホタルイ多発 田ではホタルイ に有効な中・後 期剤との組み合 せで使用する。
	②⑧ NC-311 R粒 〔Ⅱ-6-(6) と併用〕	土壌 処理	全域の普通 期・温暖地 の早期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・セ リ・エゾノサヤヌ カグサ 〔但し、ウリカワ〕	+5~ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、温暖地東 部以北・暖地は +5~ノビエ2 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・	300 g/a	砂壤土~埴 土(2cm/ 日以下)。 〔但し、温 暖地西部 (近畿・ 中国)普 通期は(1	

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II 1.3. 移植後土壌処理 (つづき)	②⑧ NC-311 R粒 (つづき)			は温暖地西部(四国)普通期・暖地を除く。ミズガヤツリは寒地・温暖地西部(四国)普通期を除く。オモダカ・セリは温暖地西部の早期のみ。ヘラオモダカは寒地・寒冷地・温暖地西部(近畿・中国)の普通期のみ。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。	オモダカ・ヘラオモダカ; 2Lまで。セリ; 新葉展開期～増殖初期まで。エゾノサヤヌカグサ; 発生始まで。		cm/日以下。暖地は(1.5cm/日以下)。寒地の砂壌土は(1.5cm/日以下)。寒冷地・温暖地東部普通期は砂壌土を除く。温暖地の早期・温暖地西部(四国)普通期は壌土～埴土(1cm/日以下)。	
	②⑨ ACN粒 (モゲトン)	土壌処理	寒地・寒冷地。	アオミドロ・表層剥離・アオウキクサ・アミミドロ・ウキクサ・イチョウゴケ。 〔但し、アオウキクサ・アミミドロ・ウキクサ・イチョウゴケは寒冷地のみ。〕	雑草・表層剥離; 発生時。 〔但し、寒地は発生前。〕	g/a 100～200 〔但し、寒地は100 ～150g/a〕	壌土～埴土 (2cm/日以下)。	(1) 初期剤との混用または体系処理で使用する。 (2) 処理後の保水に注意する。
	③⑩ プロメトリ ン粒 (ゲザガード)	土壌処理	温暖地東部以北・暖地の普通期。	アオミドロ・表層剥離。	+3～+5 〔但し、寒冷地は+3～+7。〕 アオミドロ・表層剥離; 発生始まで。 〔但し、寒地は発生前。〕	30～50g/a	砂壌土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、寒地・温暖地東部は砂壌土を除く。暖地は埴壌土～埴土(1cm/日以下)〕。	(1) 初期剤との混用または体系処理で使用する。
	③⑪ CG-SW ①S粒	土壌処理	寒冷地以西の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離・ジャクジモ・ウキクサ。 〔但し、オモダカは寒冷地のみ。ヘラオモダカは寒冷地・温暖地東部普通期のみ。ヒルムシロは寒	+3～ノビエ2Lまで。 〔但し、寒冷地は+3～ノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ; 2Lまで。 〔但し、寒冷地・温暖地東部は発生始まで。〕 ウリカワ; 2Lまで。 〔但し、温暖地東部の早期は発生始まで。〕	300g/a	砂壌土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、暖地早期は(1cm/日以下)。温暖地の早期は壌土～埴土(1cm/日以下)〕。	(1) 著しい高温条件下の砂壌土ではクロロシスの発生するので注意する。 (2) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (3) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
II 1. 移植後土壌処理(つづき)	㉑ CG-SW ①S粒 (つづき)			冷地・温暖地の普通期のみ。アオミドロ・表層剥離は寒冷地・温暖地の普通期と温暖地西部以西の早期のみ(暖地の早期は表層剥離を除く)。シャジクモは温暖地東部の普通期のみ。ウキクサは温暖地西部の早期のみ。	ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ; 発生始まで。ヒルムシロ; 発生期。 アオミドロ・表層剥離・シャジクモ・ウキクサ; 発生前。		(1cm/日以下)。寒冷地のオモダカは砂壤土を除く。	する。
	㉒ DPX-84 CG粒 〔II-6-(6)と併用 (ゴロボ25)〕	土壌処理	寒冷地以北。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離・エゾノサヤヌカグサ・セリ。 〔但し、ミズガヤツリ・オモダカは寒冷地のみ。ヒルムシロは寒冷地南部を除く。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。セリは寒冷地北部のみ。〕	+5〜ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 オモダカ; 発生始まで。 ヒルムシロ; 発生期。 〔但し、寒冷地北部は発生始まで。〕 アオミドロ・表層剥離; 発生前。 エゾノサヤヌカグサ; 1〜4L(草丈20cm以下)。セリ; 再生前〜始。	300 g/a	壤土〜埴土(2cm/日以下)。	(1) 植付精度不良で、根が露出する水田では使用しない。 (2) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので使用はさしひかえる。
	㉓ HSW-871粒	土壌処理	寒地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離。	+3〜ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発生始まで。 アオミドロ・表層剥離; 発生前〜始。	300 g/a	砂壤土〜埴土(2cm/日以下)。 〔但し、砂壤土は(1.5cm/日以下)。〕	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下の砂壤土水田ではクロロシスの発生するので注意する。
	㉔ KSS 粒 (リワード*)	土壌処理	寒冷地以西の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは温暖地以西の普通期と温暖地西部以西の早期のみ。ヒルムシロは温暖地東部の普通期のみ。〕	+3〜ノビエ1.5Lまで。 〔但し、暖地は+3〜ノビエ2Lまで。〕 ホタルイ; 2Lまで。 〔但し、寒冷地は発生始まで。〕 ウリカワ; 2Lまで。 〔但し、寒冷地・温暖地西部(近畿・中国)普通	300 g/a	砂壤土〜埴土(2cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部(近畿・中国)普通期・暖地早期は(1.5cm/日以下)。温暖地東部早期・温暖地西	(1) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅱ 1. 3. 移植後土壌処理(つづき)	㊸ KSS 粒 (つづき)				期・温暖地東部 早期は発生始 まで。 ミズガヤツリ; 2 L まで。 〔但し、温暖地の 普通期(四国を 除く)は発生始 まで。 ヒルムシロ; 発生 期。		部(四国) 普通期は (1cm/ 日以下)。 寒冷地は 砂壤土を 除く、温 暖地西部 の早期は 壤土~埴 土(1cm /日以下)。	
	㊹ DPX-84 SC 粒 〔Ⅱ-6-(5) Ⅱ-6-(6) と併用。〕 (フジガラス 25*)	茎 葉 兼 土 壌 処 理	全域の早期・ 普通期。 〔但し、温 暖地西部 の早期を 除く。〕	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ・ヒルム シロ・アオミドロ・ 表層剥離・エゾノ サヤヌカグサ・シ ズイ・セリ。 〔但し、ホタルイ は暖地早期を除 く。ウリカワ・ ヒルムシロは暖 地を除く。ミズ ガヤツリは寒地 を除く。オモダ カは寒冷地・温 暖地東部のみ。 ヘラオモダカ・ アオミドロ・表 層剥離は寒冷地 以北のみ、クロ グワイは寒冷地 のみ。エゾノサ ヤヌカグサは寒 地のみ。シズイ ・セリは寒冷地 北部のみ。〕	+5~ノビエ 2.5 L まで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 L まで。 〔但し、暖地のミ ズガヤツリは 3 L まで。 オモダカ; 3 L ま で。 〔但し、寒冷地は 2 L まで。温暖 地東部早期は発 生始まで。 クログワイ・アオ ミドロ・表層剥離 ; 発生始まで。 ヒルムシロ; 発生 期。 〔但し、寒地は発 生始まで。 エゾノサヤヌカ グサ; 1~4 L (草 丈 20cm 以下)。 シズイ; 発生始~ 草丈 2~3 cm。 セリ; 発生前~始。	300 g/a	砂壤土(1.5 cm/日以下)。 壤土~埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、砂 壤土は寒 地のみ。 温暖地西 部は埴土(1 cm/日以下)。	(1) 著しい多雨条 件では、除草効 果が低下する場 合があるので使 用はさしひかえ る。 (2) クログワイ防 除は、クログワ イに有効な後期 剤との組み合わせ で使用する。
Ⅱ 1. 4. 茎葉兼土壌処理	① BAS-521 粒	茎 葉 兼 土 壌 処 理	全域の普通 期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・セ リ・エゾノサヤヌ カグサ。 〔但し、ミズガ ヤツリは寒地を除 く。オモダカは 温暖地東部・温 暖地西部(四国) のみ。ヘラオモ ダカは寒冷地北 部以北のみ。エ ゾノサヤヌカグ サは寒地のみ。 セリは温暖地以 西(近畿・中国	+20~+30(ノビ エ 2~3.5 L ま で)。 〔但し、寒地はノ ビエ 2~3 L。 寒冷地はノビエ 2.5~3.5 L。 温暖地西部以西 は+10~+20/ エビ 2.5~3.5 L)。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ ; 4 L まで。 〔但し、温暖地東 部はホタルイ・ ウリカワ 3.5 L。 ミズガヤツリ 3 L まで。温暖地	300 g/a	砂壤土~埴 土(2cm/ 日以下)。 〔但し、寒 地の砂壤 土は(1.5 cm/日以 下)、寒 冷地・温 暖地東部 ・温暖地 西部(四 国)は砂 壤土を除 く。暖地 は埴壤土 ~埴土。〕	(1) 落水または浅 水で使用する。 (2) 処理後の灌水 は48~72時間経 過後に行なう。 (3) 処理後2日以 内に降雨が予想 される場合は使 用をさしひかえ る。 (4) 著しい多雨条 件では、除草効 果が低下する場 合があるので使 用はさしひかえ る。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II 4. 茎葉兼土壌処理(つづき)	① BAS-521 粒 (つづき)			[を除く)のみ.]	西部(近畿・中国)はウリカワ・ミズガヤツリ5Lまで。温暖地西部(四国)はホタルイ花茎抽出期まで、ウリカワ・ミズガヤツリ3.5Lまで。暖地はホタルイ3.5L・ミズガヤツリ3Lまで。 オモダカ; 3.5Lまで。 [但し、温暖地東部は1.5Lまで。] ヘラオモダカ; 3Lまで。 エゾノサヤヌカグサ; 1~4L(草丈20cm以下)。セリ; 生育初期まで。 [但し、温暖地西部(四国)は新葉展開~増殖盛期まで。]			
	② BAS-521 水和	茎葉兼土壌処理	全域の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・エゾノサヤヌカグサ・セリ。 [但し、ホタルイは温暖地西部(四国)を除く。ミズガヤツリは寒地を除く、ヘラオモダカは寒冷地北部以北のみ。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。セリは暖地のみ。]	寒地; +25~+35(ノビエ3.5Lまで)。 寒冷地; +20~+30(ノビエ2.5~4L)。 温暖地東部; +20~+30(ノビエ3~5L)。 温暖地西部; +15~+25(ノビエ3~5L)。 [但し、四国は+15~+20。] 暖地; +15~+20(ノビエ3~4L)。 ホタルイ; 花茎抽出始まで。 [但し、寒冷地南部・温暖地東部は5Lまで。温暖地西部は4Lまで。] ウリカワ; 5Lまで。 [但し、寒地・温暖地西部(四国)は4Lまで。暖地は6Lまで。] ミズガヤツリ; 5Lまで。 [但し、温暖地西]	50 g/a	砂壤土~埴土(2cm/日以下)。 [但し、砂壤土は温暖地西部(近畿・中国)のみ。暖地は埴壤土~埴土。]	(1) 落水または浅水で使用する。 (2) 処理後の溜水は48~72時間経過後に行なう。 (3) 処理後2日以内に降雨が予想される場合は使用をさしひかえる。 (4) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので使用をさしひかえる。 (5) 散布は水稻になるべくかからないように行なう。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅱ ― 4. 茎葉兼土壌処理 (つづき)	② BAS-521 水和 (つづき)				部(四国)は4 Lまで。 ヘラオモダカ; 4 Lまで。 エゾノサヤスカグ サ; 1~4 L(草 丈20cm以下)。 セリ; 生育期。			
	③ NTN-806 ①粒 (クロアSM*)	茎葉兼土壌処理	温暖地東部の 普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ。	+12~+18(ノビ エ3 Lまで)。 ホタルイ; 2 Lま で。 ウリカワ; 3 Lま で。	300 g/a	壤土~埴土 (2 cm/日 以下)。	(1) 低気温および 低水温時は薬害 の危険性がある ので使用はさけ る。 (2) トリアジン系 除草剤の使用上 の注意を守る。
Ⅱ ― 5. 適用時期拡大	① BAS-521 粒 〔Ⅱ-6-(2)〕 〔Ⅱ-6-(3)〕 〔Ⅱ-6-(5)〕 と併用。	茎葉兼土壌処理	全域の普通 期・温暖地 の早期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・セ リ・シズイ・エゾ ノサヤスカグサ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く。オモダカは 近畿・中国を除 く温暖地の普通 期・温暖地西部 の早期のみ。ヘ ラオモダカは寒 冷地北部以北・ 温暖地西部(近 畿・中国)のみ。 セリは寒冷地南 部と温暖地東部 早期を除く。エ ゾノサヤスカグ サは寒地のみ。 シズイは寒冷地 北部のみ。〕	田植前後土壌処理 した場合 +20~+35(ノビ エ3.5 Lまで)。 〔但し、寒地はノ ビエ3 Lまで。 温暖地西部の早 期は4 Lまで。〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ ; 4 Lまで。 〔但し、温暖地西 部以西のホタル イは花茎抽出始 まで。温暖地西 部早期・暖地の ウリカワは5 L まで。温暖地西 部早期のミズガ ヤツリは6 Lま で。暖地のミズ ガヤツリは5 L まで。〕 オモダカ; 矢じり 葉2枚まで。 〔但し、温暖地西 部普通期は生育 初期4~5 Lま で。温暖地西部 早期は矢じり葉 1枚まで。〕 ヘラオモダカ; 3 Lまで。 セリ; 発生盛期~ 増殖初期。 シズイ; 草丈10~ 20 cmまで。 エゾノサヤスカグ サ; 1~4 L(草 丈20 cm以下)。	300 g/a	砂壤土~埴 土(2 cm/ 日以下)。 〔但し、寒 地の砂壤 土は(1.5 cm/日以下)。 暖 地の砂壤 土は(1 cm/日以下)。 寒 冷地・温 暖地の早 期は砂壤 土を除く。〕	(1) 前処理剤との 組み合わせで使用 する。 (2) 落水もしくは 浅水で使用する。 (3) 処理後の灌水 は48~72時間経 過後に行なう。 (4) 処理後2日以 内に降雨が予想 される場合は使用 をさしひかえる。
	② BAS-521 水和		全域の普通 期・温暖地 東部の早期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ	田植前後土壌処理 した場合 +25~+40(ノビ	50 g/a	砂壤土~埴 土(2 cm/ 日以下)。	(1) 前処理剤との 組み合わせで使用 する。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 1 5. 適用時期拡大(つづき)	② BAS-521 水和 〔Ⅱ-6-(3) Ⅱ-6-(5) と併用. (つづき)	茎葉兼土壌処理		ヤツリ・ヘラオモ ダカ・セリ・シズ イ・エゾノサヤヌ カグサ. 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く。ヘラオモダ カは寒冷地北部 以北のみ。セリ は寒冷地北部・ 温暖地東部の普 通期・暖地のみ。 エゾノサヤヌカ グサは寒地のみ。 シズイは寒冷地 北部のみ。〕	エ5Lまで). 〔但し、寒地はノ ビエ3.5Lまで。 寒冷地北部はノ ビエ4Lまで。 ホタルイ; 花茎抽 出始まで。 〔但し、温暖地東 部は5Lまで。 ウリカワ; 6Lま で。 〔但し、寒地は4 Lまで、寒冷地 は5Lまで。 ミズガヤツリ; 5 Lまで。 ヘラオモダカ; 4 Lまで。 セリ; 増殖初期～ 盛期。 シズイ; 草丈20～ 30cm。 エゾノサヤヌカグ サ; 1～4L(草 丈20cm以下)。		〔但し、砂 壤土は温 暖地西部 (近畿・ 中国)の み。温暖 地東部早 期・暖地 普通期は 埴壤土～ 埴土。〕	(2) 落水もしくは 浅水で使用する。 (3) 処理後の灌水 は48～72時間経 過後に行なう。 (4) 処理後2日以 内に降雨が予想 される場合は使 用をさしひかえ る。 (5) 著しい多雨条 件では除草効果 が低下する場合 があるので使用 はさしひかえる。 (6) 散布は水稲に なるべくかから ないようにする。
	③ CG-SW ①D粒 (クサホープ D)	土 壌 処 理	寒冷地北部.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ・ アオミドロ・表層 剥離.	田植前後土壌処理 した場合. +10～+15(ノビ エ1.5Lまで). ホタルイ・ヘラオ モダカ; 発生始ま で。 ウリカワ・ミズガ ヤツリ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発生 期。 アオミドロ・表層 剥離; 発生前。	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下)。	(1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する。
	④ DPX-84 A粒 (ウルフ25)	土 壌 処 理	寒地・寒冷 地.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ウ リカワ・ミズガヤ ツリ・オモダカ・ヘ ラオモダカ・クログ ワイ・ヒルムシロ・ア オミドロ・表層剥離 ・エゾノサヤヌカ グサ・シズイ。 〔但し、ミズガヤ ツリ・クログワ イ・シズイは寒 冷地のみ。オモ ダカは寒冷地北 部のみ。アオミ ドロ・表層剥離 ・エゾノサヤヌ カグサは寒地の み。〕	田植前後土壌処理 した場合. +15～+20(ノビ エ2Lまで). 〔但し、寒地はノ ビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 オモダカ; 発生始 まで。 クログワイ; 発生 期。 ヒルムシロ; 発生 期。 〔但し、寒地は発 生始まで。 アオミドロ・表層 剥離; 発生前～始 エゾノサヤヌカグ サ; 1～4L(草	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下)。砂 埴土(1.5cm /日以下)。 〔但し、砂 埴土は寒 地のみ。〕	(1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する。 (2) 著しい多雨条 件下では、除草 効果が低下する 場合があるので、 使用はさしひか える。 (3) クログワイ防 除はクログワイ に有効な後期剤 との組み合わせ で使用する。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ ― 5. 適用時期拡大 (つづき)	④ DPX-84 A粒 (つづき)				丈20cm以下)。 シズイ; 草丈2~ 3cmまで。			
	⑤ DPX-84 A①粒 (ウルフ17)	土 壌 処 理	寒冷地南部 ・温暖地東 部の普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヒルムシロ。 〔但し、オモダカ は温暖地東部の み。〕	田植前後土壌処理 した場合。 +15~+20(ノビ エ2Lまで)。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ ; 2Lまで。 オモダカ; 発生始 まで。 ヒルムシロ; 発生 期。	300 g/a	砂壤土~埴 土(2cm/ 日以下)。 〔但し、砂 壤土は寒 冷地南部 のみ。〕	(1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する。 (2) 著しい多雨条 件では、除草効 果が低下する場 合があるので、 使用はさしひか える。
	⑥ NC-311 粒 〔Ⅱ-6-(2) Ⅱ-6-(3) と併用。〕	土 壌 処 理	温暖地以北 の早期・普 通期。	一年生非イネ科・ マツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ミ ズガヤツリ・オモ ダカ・ヘラオモダ カ・セリ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く。オモダカは 寒冷地北部・温 暖地の普通期・ 温暖地西部の早 期のみ。ヘラオ モダカは寒冷地 北部以北のみ。 セリは温暖地西 部のみ(近畿・ 中国の普通期を 除く)。〕	田植前後土壌処理 した場合。 +12~+20。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 オモダカ; 2Lま で。 〔但し、温暖地西 部は発生期。〕 セリ; 増殖初期~ 増殖盛期。 〔但し、早期は新 葉展開期~増殖 初期まで。〕	300 g/a	砂壤土(1.5 cm/日以下)。 壤土~埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、砂 壤土は寒 地のみ。 温暖地東 部普通期 は(1.5 cm/日以 下)。温 暖地東部 早期・温 暖地西部 は(1cm /日以下)〕	(1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する。 (2) 著しい多雨条 件では、除草効 果が低下する場 合があるので、 使用はさしひか える。
	⑦ NTN-806 ①粒 (クローSM*)	茎 葉 兼 土 壌 処 理	温暖地以北 の早期・普 通期。 〔但し、温 暖地西部 (四国) の普通期 を除く。〕	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ。 〔但し、ミズガヤ ツリは温暖地の 普通期・温暖地 東部の早期のみ。 ヘラオモダカは 寒冷地北部以北 のみ。〕	田植前後土壌処理 した場合。 +20~+25(ノビ エ3Lまで)。 〔但し、寒冷地以 北はイネ5L期 以降。寒地はノ ビエ2Lまで。 寒冷地南部・温 暖地西部の普通 期はノビエ2.5 Lまで。 ホタルイ; 2Lま で。 〔但し、寒冷地は 3Lまで。〕 ウリカワ; 3Lま で。 〔但し、温暖地西 部の普通期は2 Lまで。〕 ミズガヤツリ; 発 生始まで。 〔但し、温暖地西 部の普通期は2 Lまで。〕	300 g/a	砂壤土(1.5 cm/日以下)。 壤土~埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、砂 壤土は寒 地のみ。 温暖地西 部の早期 は(1cm /日以下)。 温暖地東 部の早期 ・温暖地 西部の普 通期は埴 壤土~埴 土(2cm /日以下)〕	(1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する。 (2) 低気温および 低水温時は薬害 の危険性がある ので使用はさけ る。 (3) トリアジン系 除草剤の使用上 の注意を守る。 (4) MCP混合剤 の注意事項を守 る。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 1 5. 適用時期拡大(つづき)	⑦ NTN-806 ①粒 (つづき)				ヘラオモダカ; 2 Lまで。 〔但し、寒冷地北 部は3Lまで。〕			
	⑧ S-28H 粒	茎葉兼土壌処理	温暖地以北 の早期・普 通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ア オミドロ・表層剥 離。 〔但し、ミズガヤ ツリは温暖地の 早期・温暖地東 部の普通期のみ。 オモダカは温暖 地西部の早期の み。ヘラオモダ カは寒地のみ。 アオミドロ・表 層剥離は温暖地 西部の普通期の み。〕	田植前後土壌処理 した場合。 +20～+25(ノビ エ2.5Lまで)。 〔但し、寒冷地以 北はイネ5L期 以降。寒地はノ ビエ2Lまで。 温暖地西部の早 期はノビエ3L まで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 〔但し、温暖地東 部のウリカワは 3Lまで。温暖 地西部のホタル イ・ウリカワは 4Lまで。温暖 地西部のミズガ ヤツリは5Lま で。 オモダカ; 発生期。 アオミドロ・表層 剥離; 発生始まで。〕	300 g/a	砂壤土～埴 土(2cm/ 日以下)。 〔但し、温 暖地西部 の普通期 は(1cm /日以下)。 寒地の砂 壤土は (1.5cm /日以下)。 寒冷地・ 温暖地東 部普通期 は砂壤土 を除く。 温暖地西 部の早期 は埴土～ 埴土(1 cm/日以 下)。温 暖地東部 の早期は 埴土～ 埴土(1 cm/日以 下)〕。	(1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する。 (2) トリアジン系 除草剤の使用上 の注意を守る。
Ⅱ 1 6 (1) クロ グ ワイ 対象	① BAS-3510 (Na) ①液							
	② BAS-521 水和							
	③ DPX-84 粒							
	④ DPX-84 B粒							
	⑤ DPX-84 B ①粒							
	⑥ DPX-84 C G粒							
	⑦ DPX-84 C G ①粒							
	⑧ DPX-84 S C ①粒							
	⑨ NC-311 粒							

(クログワイに対して有効であるので、徹底防除の項で継続検討する。)

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅱ 6 ― 1 イ 対象 (つづき)	⑩ NC-311 B①粒							
	⑪ NC-311 R粒							
	⑫ NC-YH 粒							
Ⅱ 6 ― 1 (2) オ モ ダ カ 対 象	① BAS-3510 (Na)① 液 〔Ⅱ-6-(8) と併用。 (バサグラン)	茎 葉 処 理	寒冷地北部 ・温暖地東 部・温暖地 西部(四国) の普通期。	オモダカ。	田植前後土壌処理 した場合。 ±25～+40。 オモダカ; 発生盛 期～増殖初期。 〔但し、温暖地東 部は5～6 L。 矢じり葉4枚ま で。〕	ml/a 50～70	砂壤土～埴 土(2 cm/ 日以下)。 〔但し、温 暖地東部 は(1 cm /日以下)。 温暖地西 部(四国) は埴土(1 cm/日以 下)〕	(1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する。 (2) 落水もしくは 浅水で使用する。 (3) 処理後の灌水 は、48～72時間 経過後に行なう。 (4) 処理後2日以 内に降雨が予想 される場合は使 用をさしひかえ る。 (5) 散布は水稻に なるべくかから ないようにする。
			暖地の早期 ・普通期。	コウキヤガラ。	田植前後土壌処理 した場合。 +25～+30。 コウキヤガラ; 増 殖期。		砂壤土～埴 土(2 cm/ 日以下)。 〔但し、普 通期は砂 壤土を除 く。〕	
	② BAS-521 粒		〔Ⅱ-5-①の項参照〕					
	③ DPX-84 粒	土 壌 処 理	寒冷地・温 暖地東部の 早期・普通 期, 温暖地 西部(四国) の普通期。 〔但し、温 暖地東部 の普通期 は低温時 移植地帯 に限る。〕	オモダカ。	田植前後土壌処理 した場合。 +15～+20。 オモダカ; 発生始 まで。 〔但し、温暖地東 部は発生前。〕	300 g/a	埴土～埴土 (2 cm/日 以下)。 〔但し、温 暖地西部 (四国) は(1 cm /日以下)〕	(1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する。 (2) 著しい多雨条 件では、除草効 果が低下する場 合があるので、 使用はさしひか える。
	④ NC-311 粒		〔Ⅱ-5-⑥の項参照〕					
	⑤ NC-311 B①粒		〔Ⅶ-2-⑩の項参照〕					
Ⅱ 6 ― 3 セ リ 対 象	① BAS-521 粒		〔Ⅱ-5-①の項参照〕					
	② BAS-521 水和		〔Ⅱ-5-②の項参照〕					
	③ NC-311 粒		〔Ⅱ-5-⑥の項参照〕					

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II-6- (3) (つづき)	④ <u>NC-311</u> <u>B①粒</u>		〔VII-2-⑩の項参照〕					
II-6- (5) シズイ対象	① <u>BAS-521</u> <u>粒</u>		〔II-5-①の項参照〕					
	② <u>BAS-521</u> <u>水和</u>		〔II-5-②の項参照〕					
	③ <u>DPX-84</u> <u>SC粒</u>		〔II-3-⑤⑤の項参照〕					
II-6- (6) エゾノサヤヌカグサ対象	① <u>DPX-84</u> <u>B粒</u>	茎葉兼土壌処理	寒地.	エゾノサヤヌカグサ.	エゾノサヤヌカグサ; 1~4 L (草丈20cm以下).	300 g/a	壇土~壇土 (2cm/日以下).	
	② <u>DPX-84</u> <u>CG粒</u>		〔II-3-⑤②の項参照〕					
	③ <u>DPX-84</u> <u>SC粒</u>		〔II-3-⑤⑤の項参照〕					
	④ <u>NC-311</u> <u>B①粒</u>	茎葉兼土壌処理	寒地.	エゾノサヤヌカグサ.	+5~+15. エゾノサヤヌカグサ; 2~3 L (草丈10cm以下).	300 g/a	壇土~壇土 (2cm/日以下).	
	⑤ <u>NC-311</u> <u>R粒</u>		〔II-3-⑤③の項参照〕					
II-6- (8) コウキヤガラ対象	① <u>BAS-3510</u> <u>(Na)①液</u>		〔II-6-(2)-①の項参照〕					
	② <u>DPX-84</u> <u>SC①粒</u> (フジガラス17*)	茎葉兼土壌処理	暖地の早期.	<u>コウキヤガラ.</u>	+5~ノビエ2.5 L. コウキヤガラ; 発生始~増殖初期.	300 g/a	砂壇土~壇土 (2cm/日以下).	(1) 著しい多雨条件では, 除草効果が低下する場合がありますので, 使用はさしひかえる. (2) コウキヤガラ防除はペンタゾンを含む後期剤との体系で効果大.
III-1. 湛水直播	① <u>CG-SW</u> <u>L (改) 粒</u>	土壌処理	寒冷地以西.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ヒルムシロ. 〔但し, ウリカワは寒冷地を除く. ヒルムシロは温暖地西部のみ.〕	イネ出芽前後~ノビエ2 Lまで. 〔但し, 寒冷地はノビエ1.5 Lまで, 暖地はイネ1 L~ノビエ1.5 Lまで. ホタルイ; 発生始まで.〕	300 g/a	壇土~壇土 (2cm/日以下). 〔但し, 温暖地西部は砂壇土~壇土 (1cm/日以下). 暖	

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅲ 1. 湛 水 直 播 (つづき)	① CG-SW ㊦(改)粒 (つづき)				〔但し、寒冷地は〕 2 L まで。 ウリカワ; 2 L まで。 〔但し、温暖地東部〕 は発生始まで。 ヒルムシロ; 発生期。		地は壇 土～壇土 (2cm/ 日以下)。	
	② DPX-84 A㊦粒 (ウルフ17)	土 壤 処 理	寒冷地南部。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ。	イネ 1 L～ノビエ 1.5 L まで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ ; 発生始まで。	300 g/a	壇土～壇土 (2 cm/日 以下)。	
	③ DPX-84 M㊦粒 (プッシュ17)	土 壤 処 理	寒冷地南部 以西。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヒルムシロ・セリ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒冷地南部 ・温暖地東部の み。オモダカ ・ヒルムシロは 温暖地のみ。セ リは温暖地西部 (近畿・中国) のみ。〕	イネ 1 L～ノビエ 2 L まで。 〔但し、寒冷地南 部はイネ 1 L～ ノビエ 1.5 L ま で。 ホタルイ・ウリカ ワ; 2 L まで。 〔但し、寒冷地南 部・温暖地西部 (四国)・暖地 は発生始まで。 ミズガヤツリ; 2 L まで。 〔但し、寒冷地南 部は発生始まで。 オモダカ・ヒルム シロ; 発生期。 〔但し、温暖地東 部のオモダカは 発生始まで。 セリ; 発生前～始。	300 g/a	砂壇土～壇 土(2 cm/ 日以下)。 〔但し、砂 壇土は寒 冷地南部 のみ。温 暖地西部 は(1 cm /日以下)。	
	④ MY-93 E 粒 (ノラミット)	土 壤 処 理	温暖地西部 以西。	一年生雑草・マツ バイ・ウリカワ・ ヒルムシロ。 〔但し、暖地はマ ツバイを除く。 ヒルムシロは温 暖地西部(近畿・ 中国)を除く。〕	+0～ノビエ 2 L まで。 〔但し、温暖地西 部はノビエ 1.5 L まで。 ウリカワ; 2 L ま で。 ヒルムシロ; 発生 始まで。 〔但し、温暖地西 部(四国)は増 殖初期まで。〕	g/a 300～400 〔但し、温 暖地西部 は 300 の み。〕	砂壇土～壇 土(1 cm/ 日以下)。 〔但し、暖 地は壇土 ～壇土(2 cm/日以 下)。	
	⑤ SL-496 ㊦(改)粒	土 壤 処 理	寒冷地・温 暖地西部以 西。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ。 〔但し、ウリカワ は温暖地西部以 西(四国を除く)。	イネ 1 L～ノビエ 1.5 L まで。 〔但し、温暖地西 部(四国)はノ ビエ 2 L まで。 ホタルイ; 2 L ま で。 〔但し、温暖地の 普通期は発生始 まで。〕	300 g/a	壇土～壇土 (2 cm/日 以下)。 〔但し、温 暖地西部 は(1 cm /日以下)。 暖地は壇 壇土～壇 土(2 cm /日以下)。	

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅲ-1. 湛水直播(つづき)	⑥ SL-708 粒	土壌処理	寒冷地以西.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ。 〔但し、ホタルイは温暖地以西のみ。ウリカワは温暖地西部以西のみ。ヘラオモダカは寒冷地のみ。〕	+3～ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ; 2Lまで。 ヘラオモダカ; 発生始まで。	300 g/a	埴土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、暖地は埴埴土～埴土。〕	(1) マツバイ多発田での使用はさける。
Ⅲ-2. 乾田直播	① HW-61 水和	茎葉兼土壌処理	温暖地西部以西.	一年生雑草.	播種後～ノビエ5Lまで(入水5日前まで)	60 g/a	温暖地西部; 埴土。暖地; 埴土。	(1) カーバメイト系剤との近接散布をさける。
Ⅳ 畦 畔 雑 草	① DDX 水和	茎葉処理	寒冷地以西.	全草種.	雑草生育期。 〔但し、雑草発生前後なるべく早目に散布する。〕	100～150 g/a 〔但し、温暖地以西(四国を除く)は150gのみ。〕	全 土 壌	(1) ノリ面散布はさける。 (2) 流入、飛散等による水稻への薬害に注意する。
	② グリホサート液(ラウンドアップ)	茎葉処理	全 域.	全草種.	雑草生育期。 〔但し、寒地は雑草生育期～積雪前。〕	一年生雑草; 25～50 ml/a。 多年生雑草; 75～100 ml/a。 少量散布の場合; 25 ml/a。希釈水量 2.5 l/a でも有効。	全 土 壌	(1) ノリ面散布はさける。 (2) 流入、飛散等による水稻への薬害に注意する。 (3) 年1回程度の使用にとどめる。 (4) 少量散布の場合は専用の散布機を用いる。
	③ グリホサート 水溶	茎葉処理	寒冷地・温暖地西部以西.	全草種.	雑草生育期.	50～75 g/a 〔但し、寒冷地は40～60 g/a。〕 少量散布(希釈水量 2.5 l/a)でも有効。	全 土 壌	(1) ノリ面散布はさける。 (2) 流入、飛散等による水稻への薬害に注意する。 (3) 少量散布の場合は専用の散布機を用いる。
	④ Hoe-866 液(バスタ)	茎葉処理	全 域.	全草種.	雑草生育期	寒地; 75～100 ml/a。 寒冷地・温暖地東部; 50～100 ml/a。 温暖地西部; 30～75 ml/a。 暖地; 50～75 ml/a。	全 土 壌	(1) ノリ面散布はさける。 (2) 流入、飛散等による水稻への薬害に注意する。
	⑤ HOK-15 ①細粒	土壌処理	寒冷地・温暖地西部以西.	全草種.	雑草発生前～発生始期.	寒冷地; 500～1,000 g/a。	全 土 壌	(1) ノリ面散布はさける。 (2) 流入、飛散等

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
IV 畦 畔 雑 草 (つづき)	⑤ HOK-15 ①細粒 (つづき)					温暖地西部 ; 700 ~ 1,000 g /a. 暖地: 1,000 g/a.		による水稻への 薬害に注意する.
	⑥ MON-8794 液 (ポラリス*)	茎 葉 処 理	全 域. 〔但し、温 暖地東部 を除く.〕	全草種.	雑草生育期(草丈 20~30 cm).	寒冷地以北 ; 30~50 ml/a. 温暖地西部 以西; 40~ 50ml/a. 少量散布(希 釈水量 2.5 l/a)でも 有効(寒地 のみ).	全 土 壤	(1) ノリ面散布は さける. (2) 流入、飛散等 による水稻への 薬害に注意する. (3) 少量散布の場 合は専用の散布 機を用いる.
	⑦ MR-28 液	茎 葉 処 理	全 域.	全草種.	雑草生育期.	30~50 ml/ 少量散布(希 釈水量 2.5 l/a)でも 有効(寒地 ・温暖地).	全 土 壤	(1) ノリ面散布は さける. (2) 流入、飛散等 による水稻への 薬害に注意する. (3) 少量散布の場 合は専用の散布 機を用いる.
	⑧ MW-831 水溶 (ハービエー ス*)	茎 葉 処 理	寒冷地以西.	全草種.	雑草生育期.	寒冷地; 30 ~75 g/a. 温暖地以西 ; 50~75 g/a.	全 土 壤	(1) ノリ面散布は さける. (2) 流入、飛散等 による水稻への 薬害に注意する.
	⑨ MW-DC 水和	茎 葉 兼 土 壌 処 理	寒冷地・温 暖地西部(四 国).	全草種.	雑草生育期 〔但し、雑草発生 前後なるべく早 目に散布する.〕	50~75g/a	全 土 壤	(1) ノリ面散布は さける. (2) 流入、飛散等 による水稻への 薬害に注意する.
	⑩ YF-65 ①液 (プリグロッ クス①)	茎 葉 処 理	温暖地以北. 〔但し、北 陸を除く.〕	全草種.	雑草生育期(草丈 20~30 cm).	寒冷地北部 以北; 60~ 100ml/a. 温暖地以西 ; 80~100 ml/a.	全 土 壤	(1) ノリ面散布は さける. (2) 流入、飛散等 による水稻への 薬害に注意する.
V 耕 起 前 雑 草	① グリホサート 液 (ラウンドア ップ)	茎 葉 処 理	寒冷地以西.	一年生雑草・キシ ュウスズメノヒエ.	一年生雑草; 耕起 前40~20日. キシュウスズメノ ヒエ; 耕起前20~ 10日.	一年生雑草 ; 25~50 ml/a. キシュウス ズメノヒエ ; 50~100 ml/a. 少量散布の 場合: 薬量 25ml/a, 希釈水量 2.5 l/aで も有効.	全 土 壤	(1) 周辺の作物に 飛散しないよう に注意する. (2) 希釈水量は出 来るだけ少なく 茎葉に付着する ように散布する. (3) 少量散布の場 合は、専用の散 布機を使用する.

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
V 耕 起 前 雑 草 (つづき)	② グリホサート 水溶	茎葉処理	寒冷地・温暖地西部以西.	一年生雑草.	耕起前40日～20日 (雑草生育期)	寒冷地; 40～60 g/a. 温暖地西部以西; 50～75 g/a. 〔但し, 四国は30～75 g/a.〕 少量散布(希釈水量 2.5 l/a)でも有効.	全 土 壌	(1) 周辺の作物に飛散しないように注意する. (2) 希釈水量は出来るだけ少なく茎葉に付着するように散布する. (3) 少量散布の場合は, 専用の散布機を使用する.
	③ Hoe-866 液 (バスタ)	茎葉処理	寒冷地以西.	一年生雑草.	耕起前20日～15日 (雑草生育期)	30～50ml/a	全 土 壌	(1) 周辺の作物に飛散しないように注意する.
	④ MON-8794 液 (ポラリス*)	茎葉処理	寒冷地・温暖地西部以西.	寒冷地; 一年生雑草・イネ科多年生雑草. 温暖地西部; 一年生雑草. 暖地; 一年生雑草・キシウスズメノヒエ.	耕起前40日～20日 (雑草生育期)	寒冷地; 30～50ml/a 温暖地西部以西; 40～50ml/a. 少量散布(希釈水量 2.5 l/a)でも有効.	全 土 壌	(1) 周辺の作物に飛散しないように注意する. (2) 希釈水量は出来るだけ少なく茎葉に付着するように散布する. (3) 少量散布の場合は, 専用の散布機を使用する.
	⑤ MW-831 水溶 (ハービエース*)	茎葉処理	寒冷地・温暖地.	一年生雑草.	耕起前40日～20日 (雑草生育期)	寒冷地; 30～75ml/a. 温暖地; 50～75ml/a.	全 土 壌	(1) 周辺の作物に飛散しないように注意する.
	⑥ YF-65 ①液 (プリグロックス①)	茎葉処理	温暖地.	一年生雑草.	耕起前20日～10日 (雑草生育期)	温暖地東部; 80～100ml/a. 温暖地西部; 60～100ml/a.	全 土 壌	(1) 周辺の作物に飛散しないように注意する.
VII 体系是正 VII 1. 初期一発処理剤	① CG-SW ①D粒 (クサホーブD)	土壌処理	寒冷地以西の普通期, 温暖地の早期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・シャジクモ・ウキクサ・表層剥離. 〔但し, ヘラオモダカは寒冷地・温暖地東部のみ. ヒルムシロ・表層剥離は暖地を除く. シャジクモは温暖地東部のみ. ウキクサは温暖地西部のみ.〕	+3～ノビエ2Lまで. 〔但し, 寒冷地はノビエ1.5Lまで.〕 ホタルイ・ウリカワ; 2Lまで. 〔但し, 寒冷地・温暖地東部のホタルイは発生始まで.〕 ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで. ヒルムシロ; 発生期. アオミドロ・シャジクモ・ウキクサ・表層剥離; 発生前.	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下). 〔但し, 砂壤土は温暖地東部の早期・温暖地の普通期(四国を除く)のみ. 暖地は埴土～埴土.〕	(1) 泥炭質土壌では, ウリカワに対する効果が低下することがある. (2) 著しい高温条件下の砂壤土水田ではクロロシスの発生することがあるので注意する. (3) 田植前に生育したミズガヤツリは, 完全に防除してから使用する.

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅶ 1. 初期一発処理剤(つづき)	② CG-SW ①S粒	土 壌 処 理	寒冷地・温暖地西部以西の早期・普通期(四国の普通期を除く)。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・ウキクサ・表層剥離。 〔但し、ヘラオモダカは寒冷地のみ。ヒルムシロは寒冷地・温暖地西部の普通期のみ。ウキクサは温暖地西部の早期のみ。アオミドロは暖地の普通期を除く。表層剥離は暖地を除く。〕	+3～ノビエ2Lまで。 〔但し、寒冷地は〕ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ；2Lまで。 〔但し、寒冷地の〕ホタルイは発生始まで。 ミズガヤツリ・ヘラオモダカ；発生始まで。 ヒルムシロ；発生前。 アオミドロ・ウキクサ・表層剥離；発生前。	300 g/a	壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部早期は(1cm/日以下)。暖地早期は砂壤土～埴土(1cm/日以下)。暖地普通期は埴壤土～埴土(1cm/日以下)〕	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下の砂壤土水田ではクロロシスの発生することがあるので注意する。 (3) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
	③ DPX-84 A①粒 (ウルフ17)	土 壌 処 理	寒冷地南部以西の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離・クサネム・セリ。 〔但し、オモダカ・クサネムは温暖地東部の普通期のみ。ヒルムシロは温暖地の普通期・温暖地東部の早期のみ。アオミドロ・表層剥離は寒冷地・温暖地西部の普通期のみ。セリは温暖地西部(近畿・中国)の普通期のみ。〕	+5～ノビエ2Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ；2Lまで。 オモダカ；発生始まで。 ヒルムシロ；発生前。 〔但し、温暖地西部〕部は発生始まで。 アオミドロ・表層剥離；発生前。 クサネム；発生前～本葉展開期。 セリ；再生前～始。	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部普通期の砂壤土は近畿・中国(1.5cm/日以下)。四国(1cm/日以下)。温暖地西部早期は埴壤土～埴土(1cm/日以下)。暖地普通期は埴壤土～埴土(2cm/日以下)〕	(1) 著しい多雨条件下では除草効果が低下する場合があるので、使用はさしひかえる。
	④ DPX-84 CG粒 (ゴルボ25)	土 壌 処 理	寒冷地北部。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離。	+5～ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ；2Lまで。 オモダカ・ヒルムシロ；発生始まで。 セリ；再生前～始。 アオミドロ・表層剥離；発生前。	300 g/a	埴土～埴土(2cm/日以下)。	(1) 著しい多雨条件下では除草効果が低下するので、使用はさしひかえる。 (2) 植付精度不良で、根が露出する水田では使用しない。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
VII 1. 初期一発処理剤(じっき)	⑤ DPX-84 CG①粒 (ゴルボ17)	土壌処理	寒冷地南部 以西の普通 期・温暖地 の早期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ヒ ルムシロ・セリ・ アオミドロ・表層 剥離。 〔但し、オモダカ は温暖地東部の 普通期のみ。 ヒルムシロは温 暖地東部の普通 期のみ。 ヘラオモダカは 寒冷地南部のみ。 セリは温暖地西 部のみ(近畿・ 中国の普通期を 除く)。 アオミドロ・表 層剥離は寒冷地 南部・温暖地西 部のみ(四国の 普通期を除く)〕	+5〜ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで。 〔但し、温暖地西 部早期のホタル イ・温暖地西部 (四国)のホタ ルイ・ミズガヤ ツリは発生しま で。 オモダカ; 発生始 まで。 ヒルムシロ; 発生 期。 セリ; 再生前〜始。 アオミドロ・表層 剥離; 発生前。〕	300 g/a	壇土〜壇土 (2cm/日 以下)。 〔但し、温 暖地西部 (四国普 通期は除 く)は(1 cm/日以 下)、暖 地は壇土 〜壇土 (2cm/ 日以下)〕	(1) 著しい多雨条 件では除草効果 が低下する場合 があるので使用 はさしひかえる。 (2) 植付精度不良 で、根が露出す る水田では使用 しない。
	⑥ DPX-84 M①粒	土壌処理	寒冷地南部 以西の早期 ・普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヒルムシロ・アオ ミドロ・セリ。 〔但し、オモダカ は寒冷地南部・ 温暖地東部の普 通期のみ。 ヒルムシロは暖 地の早期を除く。 アオミドロは温 暖地西部の普通 期のみ。 セリは温暖地西 部(四国の普通 期を除く)・暖 地普通期のみ。〕	+5〜ノビエ2 L まで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ ; 2 Lまで。 オモダカ; 発生始 まで。 ヒルムシロ; 発生 期。 アオミドロ; 発生 前。 セリ; 再生前〜始。	300 g/a	砂壇土〜壇 土(2cm/ 日以下)。 〔但し、温 暖地西部 普通期の 砂壇土は (1.5cm /日以下)。 温暖地西 部早期は 砂壇土を 除く。〕	(1) 著しい多雨条 件下では除草効 果が低下する場 合があるので使 用はさしひかえ る。
	⑦ KSS 粒 (リワード*)	土壌処理	温暖地以西 の普通期・ 温暖地西部 以西の早期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヒルムシ ロ。 〔但し、ヒルムシ ロは温暖地東部 のみ。〕	+3〜ノビエ2 L まで。 〔但し、温暖地は ノビエ1.5 Lま で。〕	300 g/a	砂壇土〜壇 土(2cm/ 日以下)。 〔但し、温 暖地西部 (近畿・ 中国)の 普通期・ 暖地早期 は(1.5 cm/日以 下)。 温暖地西	(1) 田植前に生育 したミズガヤツ リは、完全に防 除してから使用 する。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅶ 1. 初期一発処理剤(つづき)	⑦ KSS 粒 (つづき)						部(四国)の普通期は(1cm/日以下). 温暖地西部の早期は壌土(1cm/日以下).	
	⑧ PSS 粒	土壌処理	暖地の普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ.	+3~ノビエ2Lまで. ホタルイ; 2Lまで. ウリカワ; 2Lまで. ミズガヤツリ; 発生始まで. ヒルムシロ; 発生期.	300 g/a	砂壌土~壌土(1.5cm/日以下).	(1) 田植前に生育したミズガヤツリは, 完全に防除してから使用する.
	⑨ S-473 ①粒 (サリオ)	土壌処理	温暖地以西の <u>早期・普通期</u> .	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヒルムシロ. 〔但し, オモダカは暖地の普通期のみ. 温暖地以西の普通期・温暖地西部の早期のみ.〕	+3~ノビエ1.5Lまで. 〔但し, 温暖地東部の普通期は+1~(ノビエ1.5Lまで). 温暖地西部の普通期は+3~+5(ノビエ1Lまで). 暖地の早期は+3~+7(ノビエ1Lまで). ホタルイ; 2Lまで. 〔但し, 暖地早期のホタルイは発生始まで.〕 ウリカワ; 2Lまで. ミズガヤツリ; 2Lまで. 〔但し, 温暖地東部のミズガヤツリは発生始まで.〕 オモダカ; 発生始まで. ヒルムシロ; 発生始まで. 〔但し, 暖地普通期のヒルムシロは発生期.〕	300 g/a	砂壌土~壌土(2cm/日以下). 〔但し, 温暖地東部早期・暖地早期は(1cm/日以下). 温暖地西部普通期の砂壌土は(1.5cm/日以下). 温暖地西部の早期は壌土~壌土(1cm/日以下).〕	(1) 著しい高温条件下の砂壌土水田ではクロロシスの発生するので注意する. (2) 田植前に生育したミズガヤツリは, 完全に防除してから使用する.
	⑩ SL-495 粒 (ノックワン)	土壌処理	温暖地以西の <u>早期・普通期</u> .	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガ	+1~+7(ノビエ1Lまで). 〔但し, 温暖地東	300 g/a	砂壌土~壌土(2cm/日以下).	

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅶ 1. 初期一発処理剤(つづき)	⑩ SL-495 粒 (つづき)	土 壌 処理		ヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは暖地の普通期を除く。ヒルムシロは普通期のみ。〕	部は+3～ノビエ1.5Lまで。 温暖地西部は+3～+7(ノビエ1Lまで)。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ；2Lまで。 ヒルムシロ；発生期。 〔但し、温暖地西部は発生始まで。〕		〔但し、暖地は(1.5cm/日以下)。温暖地西部早期は(1cm/日以下)。温暖地普通期の砂壤土は(1cm/日以下)。温暖地東部早期は壤土～埴土(1cm/日以下)。〕	
	⑪ TSM-344 粒	土 壌 処理	暖地の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。	+3～ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ；発生始まで。 ヒルムシロ；発生期。	300 g/a	砂壤土～埴土(1.5cm/日以下)。	(1) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
	⑫ DPX-84 A粒 (ウルフ25)	土 壌 処理	寒地・寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリ・アオミドロ・表層剥離は寒冷地のみ。ヘラオモダカ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。〕	+7～ノビエ2Lまで。 〔但し、寒地はノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ；2Lまで。 ヒルムシロ；発生期。 アオミドロ・表層剥離；発生始まで。 エゾノサヤヌカグサ；1～4L(草丈20cm以下)。	300 g/a	壤土～埴土(2cm/日以下)。	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。
	⑬ DPX-84 M粒 (プッシュ25)	土 壌 処理	温暖地東部以北の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。アオミドロ・表層剥離は寒冷地のみ。〕	+5～ノビエ2Lまで。 〔但し、寒地は+7～ノビエ1.5Lまで。寒冷地は+7～ノビエ2Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ；2Lまで。 ヒルムシロ；発生期。 アオミドロ・表層剥離；発生前。 エゾノサヤヌカグサ；1～4L(草丈20cm以下)。	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、寒地の砂壤土は(1.5cm/日以下)。寒冷地は砂壤土を除く。〕	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
VII 2. 初・中期一発処理剤	① BSS 粒	茎葉兼土壌処理	寒地・温暖地西部(四国)以西の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ. 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカ・ヒルムシロは寒地のみ。〕	+5～ノビエ2Lまで. 〔但し、寒地・暖地の早期はノビエ2.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ; 2Lまで. ミズガヤツリ; 発生始まで. ヒルムシロ; 発生期.	300 g/a	壤土～埴土(2cm/日以下). 〔但し、温暖地西部の普通期は(1cm/日以下). 暖地の普通期は(1.5cm/日以下). 早期は埴壤土～埴土(1cm/日以下).〕	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 広葉雑草・マツバイ多発田では水管理に留意する。 (3) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
	② DPX-84 B粒	茎葉兼土壌処理	寒冷地北部.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離.	+5～ノビエ2.5Lまで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで. ヒルムシロ; 発生期. セリ; 発生前～始. アオミドロ・表層剥離; 発生始まで.	300 g/a	壤土～埴土(2cm/日以下).	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。
	③ DPX-84 B①粒	茎葉兼土壌処理	寒冷地南部以西の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離. 〔但し、ヘラオモダカは寒冷地南部のみ。ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離は温暖地東部の普通期のみ。セリは温暖地西部のみ(近畿・中国の普通期を除く).〕	+5～ノビエ2.5Lまで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで. ヒルムシロ; 発生期. セリ; 再生前～始. アオミドロ・表層剥離; 発生前.	300 g/a	壤土～埴土(2cm/日以下). 〔但し、温暖地西部(四国)の普通期は(1cm/日以下). 温暖地西部以西の普通期(四国を除く)・温暖地以西の早期は埴壤土～埴土(1cm/日以下).〕	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。
	④ DPX-84 SC粒 (フジグラス25*)	茎葉兼土壌処理	寒冷地北部.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離.	+5～ノビエ2.5Lまで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで. ヒルムシロ; 発生期. セリ; 発生前～始. アオミドロ・表層剥離; 発生始まで.	300 g/a	壤土～埴土(2cm/日以下).	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 境	使用上の注意
Ⅷ 1. 2. 初・中期一発処理剤(つづき)	⑤ DPX-84 SC①粒 (フジグラス 17*)	茎葉兼土壌処理	寒冷地南部 以西の <u>早期</u> ・ <u>普通期</u> 。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヒルムシ ロ・セリ。 〔但し、ヒルムシ ロは温暖地西部 の普通期のみ。 セリは温暖地西 部(近畿・中国) の普通期・暖地 の早期のみ。〕	+3～ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、温暖地西 部は+5～ノビ エ2.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ ；2Lまで。 ヒルムシロ；発生 期。 セリ；再生前～始。	300 g/a	砂壌土～埴 土(2cm/日 以下)。 〔但し、暖地 は(1.5cm /日以下)。 温暖地西部 普通期は(1 cm/日以下)。 寒冷地は砂 壌土を除く。 温暖地の早 期は埴壌土 ～埴土(1 cm/日以下)〕	(1) 著しい多雨条 件では除草効果 が低下する場合 があるので使用 はさしひかえる。
	⑥ DPX-84 T粒 (ザーク25)	茎葉兼土壌処理	寒地・寒冷 地。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ヒ ルムシロ・エゾノ サヤヌカグサ・セ リ・アオミドロ・ 表層剥離。 〔但し、ミズガヤ ツリ・オモダカ は寒地のみ。 エゾノサヤヌカ グサは寒地のみ。 セリは寒冷地北 部のみ。〕	+5～ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、寒地はノ ビエ2Lまで。〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ ・ヘラオモダカ； 2Lまで。 オモダカ；発生始 まで。 ヒルムシロ；発生 期。 〔但し、寒地は発 生始まで。〕 アオミドロ・表層 剥離；発生前～始。 〔但し、寒冷地は 発生始。〕 エゾノサヤヌカ グサ；1～4L(草 丈20cm以下) セリ；再生前～始。	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、寒 地は砂壌 土(1.5 cm/日以 下)を含 む。〕	(1) 著しい多雨条 件では除草効果 が低下する場合 があるので使用 はさしひかえる。 (2) 植付精度不良 で、根が露出す る水田では使用 しない。
	⑦ DPX-84 T①粒 (ザーク17)	茎葉兼土壌処理	寒冷地南部 以西の <u>早期</u> ・ <u>普通期</u> 。 〔但し、暖 地の普通 期は除く。〕	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ クログワイ・ヒル ムシロ・アオミド ロ・表層剥離・セ リ。 〔但し、オモダカ ・アオミドロ・ 表層剥離は寒冷 地南部・温暖地 西部のみ。クロ グワイは暖地の み。ヒルムシロ は温暖地のみ。 セリは温暖地西 部の普通期のみ。 表層剥離は寒冷 地南部・温暖地 西部(近畿・中 国)の普通期の み。〕	+5～ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、温暖地西 部の普通期・暖 地はノビエ3L まで。〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ ・オモダカ；2L まで。 ヒルムシロ・クロ グワイ；発生期。 セリ；再生前～始。 アオミドロ・表層 剥離；発生前。	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、温 暖地西部 早期は(1 cm/日以 下)。暖 地は砂壌 土～埴土 (1.5cm /日以下)〕	(1) 著しい多雨条 件では除草効果 が低下する場合 があるので使用 はさしひかえる。 (2) 植付精度不良 で、根が露出す る水田では使用 しない。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
VII 1. 初・中期一発処理剤(つぎ)	⑧ DPX-84 TD①粒 (ザークD17*)	茎葉兼土壌処理	寒冷地南部以西の早期・普通期。 〔但し、温暖地西部の早期は除く。〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、オモダカ・アオミドロ・表層剥離は寒冷地南部のみ。ヒルムシロは温暖地以西の普通期のみ(近畿・中国を除く)。セリは温暖地西部(四国)の普通期・暖地の早期のみ。〕	+5～ノビエ3Lまで。 〔但し、温暖地東部以北・温暖地西部(四国)はノビエ2.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。 セリ; 再生前～始。アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、暖地普通期は(1.5cm/日以下)。温暖地西部(四国)は(1cm/日以下)。暖地早期は砂壤土～埴土(1.5cm/日以下)。〕	(1) 植付精度不良で、根が露出する水田では使用しない。 (2) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので、使用はさしひかえる。
	⑨ FSS-115 粒 (リードゾン)	茎葉兼土壌処理	全域の普通期・温暖地西部以西の早期。 〔但し、温暖地東部の植付け時低温地帯は除く。〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ヒルムシロは普通期のみ。〕	+5～ノビエ2.5Lまで。 〔但し、寒地はノビエ2Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。 〔但し、寒冷地以北は発生始まで。〕	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、暖地普通期は(1.5cm/日以下)。寒地の砂壤土は(1.5cm/日以下)。温暖地西部(四国)普通期の砂壤土は(1cm/日以下)。寒冷地・温暖地(四国を除く)普通期・暖地早期は砂壤土を除く。温暖地西部早期は埴土～埴土(1cm/日以下)。〕	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 植付精度不良で、根が露出する水田では使用しない。 (3) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
	⑩ NC-311 B①粒 〔Ⅱ-6-(2) Ⅱ-6-(3) と併用。〕	茎葉兼土壌処理	寒冷地以西の普通期。温暖地の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ。 〔但し、オモダカは寒冷地北部・温暖地東部の普通期のみ。ヘラオモダカは寒冷地北部のみ。ヒ	+5～ノビエ2.5Lまで。 〔但し、暖地はノビエ2Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。 セリ; 再生前～始。	300 g/a	壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、温暖地東部早期・温暖地西部普通期は(1cm/日以下)。暖地は(1.5cm	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので、使用はさしひかえる。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
VII 1. 初・中期一発処理剤 (つづき)	⑩ NC-311 B⑩粒 (つづき)			ルムシロは温暖地西部以西(近畿・中国を除く)の普通期のみ。 セリは寒冷地北部・温暖地東部以西の普通期(近畿・中国を除く)のみ。			／日以下)。 温暖地西部早期は 埴土(1 cm／日以下)。	
	⑪ SL-641 粒	茎葉兼土壌処理	温暖地東部・暖地の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ヒルムシロは暖地のみ。〕	+5～ノビエ2.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカワ; 2 Lまで。 ミズガヤツリ; 発生始まで。 ヒルムシロ; 発生期。	300 g/a	砂埴土～埴土(1.5 cm／日以下)。 〔但し、温暖地東部は埴土～埴土(2 cm／日以下)〕。	(1) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
	⑫ YH-453 粒 (エスドラム)	茎葉兼土壌処理	全域の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒地以北のみ。ヒルムシロは温暖地東部以北のみ。〕	+5～ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、寒地はノビエ2 Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。	g/a 300～400 〔但し、寒冷地以北・温暖地以西の早期は300のみ。〕	砂埴土～埴土(2 cm／日以下)。 〔但し、温暖地普通期は(1.5 cm／日以下)。寒地・温暖地西部普通期の砂埴土は(1.5 cm／日以下)。寒冷地・暖地早期は砂埴土を除く。温暖地西部早期は埴土(1 cm／日以下)〕。	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下の砂埴土水田では、クロロシスの発生することがあるので注意する。 (3) 一年生広葉雑草多発田では400 g/aとし、特にヒメミソハギが多発する水田での使用はさける。
VII 3. 長期持続型一発処理剤	① NH-725 粒	茎葉兼土壌処理	寒冷地北部。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離。	+10～ノビエ2.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ; 2 Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。 アオミドロ・表層剥離; 発生始まで。	300 g/a	埴土～埴土(2 cm／日以下)。	
VII 4. 補正一散布法	① DPX-84 A粒 (ウルフ25)	土壌処理	寒冷地北部。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・アオミドロ・表層剥離。	田植前後に初期剤を補正散布した場合。 +7～ノビエ2 Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ;	300 g/a	埴土～埴土(2 cm／日以下)。	(1) 初期剤を田植前または田植後に200 g/a程度補正散布することにより、除草効果向上。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅶ Ⅰ 4 — (1)	① <u>DPX-84</u> A粒 (つづき)				2 Lまで。 アオミドロ・表層剥離; 発生始まで。			
	② <u>DPX-84</u> M粒 (プッシュ25)	土 壌 処 理	寒冷地北部。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・アオミドロ・表層剥離。	田植前後に初期剤を補正散布した場合。 +7～ノビエ2 Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 Lまで。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	埴土～埴土(2 cm/日以下)。	(1) 初期剤を田植前または田植後に200 g/a程度補正散布することにより、除草効果向上。
Ⅶ Ⅰ 4 — (2)	① <u>ブタクロール2,5</u> 粒 (マーシェット)	土 壌 処 理	寒冷地・温暖地東部の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ。 〔但し、ホタルイは寒冷地のみ。〕	補正散布(田植前または田植後)。 ノビエ; 1 Lまで。 ホタルイ; 発生始まで。	$\frac{g}{a}$ 150～200	砂埴土～埴土(2 cm/日以下)。	(1) 初期一発処理剤の前処理として、田植前または田植後の補正散布(150～200 g/a)が可能。
	② <u>MO-338</u> 粒 (MO)	土 壌 処 理	寒冷地・温暖地東部の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ。	補正散布(田植前または田植後)。 ノビエ; 1 Lまで。	$\frac{g}{a}$ 200～300	砂埴土～埴土	(1) 初期一発処理剤の前処理として、田植前または田植後の補正散布(200～300 g/a)が可能。
	③ <u>MTS-1</u> 粒 (ショウロNM)	土 壌 処 理	寒冷地・温暖地東部の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ。	補正散布(田植前または田植後)。 ノビエ; 1 Lまで。 ホタルイ; 発生始まで。	$\frac{g}{a}$ 150～200	砂埴土～埴土(2 cm/日以下)。	(1) 初期一発処理剤の前処理として、田植前または田植後の補正散布(150～200 g/a)が可能。
	④ <u>G-315</u> 乳 (ロンスター)	土 壌 混 和 処 理	寒冷地・温暖地東部の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ。	補正散布(田植前)。	$\frac{ml}{a}$ 25～35 (原液散布)	砂埴土～埴土(2 cm/日以下)。	(1) 初期一発処理剤の前処理として、田植前の補正散布(25～35 ml/a)が可能。
	⑤ <u>G-315</u> B乳 (デルカット)	土 壌 混 和 処 理	寒冷地・温暖地東部の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ。	補正散布(田植前)。	$\frac{ml}{a}$ 25～35 (原液散布)	砂埴土～埴土(2 cm/日以下)。	(1) 初期一発処理剤の前処理として、田植前の補正散布(25～35 ml/a)が可能。

注) 1. アンダーライン実線は本年度拡大された部分。点線はその一部が拡大されたものを示す。

2. 薬剤名欄の下段に商品名〔 () 内〕または農薬登録後予定される商品名を〔 () 内*印付〕を参考の為に記載した。

農薬は正しく使いましょう。

一発いちばん！

ヨートル普及会



●水田除草剤

ヨートル[®] 粒剤

◆一発処理でも高い防除効果を示す水田初期除草剤

- 広範囲の雑草に効果があります。
- 処理適期幅が広く、使いやすい除草剤です。
- 雑草がタラガラ発生する場合でも安定した効果があります。

— 人 事 往 来 —

井 谷 幹 名古屋支店農薬部長兼農薬課長
(農薬東京営業所営業第一課長)

越 智 節 農薬大阪営業所長 (農薬営業部
次長兼業務課長)

＜三共株式会社＞ (3月16日)

小 林 寛 治 農薬開発部部長代理 (農薬営業
部次長)

清 山 高 正 農薬営業部次長 (名古屋支店農
薬部長兼農薬課長)

大 場 義 教 農薬営業部次長 (仙台支店農薬
部長)

津 村 幸 男 農薬営業部部長代理 (農薬大阪
営業所長)

高 成 俊 行 農薬営業部業務課長 (農薬営業
部課長)

濱 田 静 男 仙台支店農薬部長 (農薬営業部
第一課長 (部長代理))

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京(03)832-4188(代)

昭和63年3月発行

植調第21巻第12号 定価400円(送料170円)

編集人 日本植物調節剤研究協会会長 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)833-1821番(代)

らくらく散布で多年草も防除



容器のまま代かき時に

散布できる水田除草剤

デルカット®

(オキサジアゾン・ブタクロール除草剤)

乳剤

★安全で省力的な機械散布もできます。

——— デルカット普及会 ———

日産化学・北興化学・ローヌ・プーラン アグロ・日本モンサント

〈事務局〉日産化学工業(株)農業事業部内 東京都千代田区神田錦町3-7-1

®：日本モンサント(株)登録商標

豊かさを描いて。

豊かさに、確かさをプラスして、
さらに美しさを求める。
ホクコーは、より質の高い実りの
世界を、今日も描き続けます。

ホクコーの 主要水田除草剤

初期一発処理剤

 プッシュ®粒剤

 クサカリン®粒剤

初期除草剤

デルカット®乳剤

ロンスター®乳剤

モータウン®粒剤

サリオ®粒剤

マーシェット®粒剤2.5

中期除草剤

セスロン®粒剤

バサグラン®粒剤(ケトリン®)

初・中期一発処理剤

リードゾン®粒剤



農 協
経 済 連
全 農



北興化学工業株式会社
東京都中央区日本橋本石町4-4-20



「確かさ」で選ぶ…
バイエルの農薬

新しいヒエ剤登場 ® **ヒノクロア** 粒剤

〈NTN 801〉メフェナセット4.0%

特長

- ①ヒエに安定した高い効果。
- ②処理適期幅が広く使い易い。
- ③土壌吸着力に優れ、移植水稻に安全性が高い。
- ④残効性に優れる。
- ⑤毒性が低く人畜、魚介類に安全性が高い。

®は登録商標

日本特殊農薬製造株式会社

東京都中央区日本橋本町2-7-1 ☎ 103

■ヒノクロアの混合粒剤で適剤適所■

●初・中期一発処理除草剤

特農 **シンザン** 粒剤

●初・中期一発処理除草剤

特農 **リードゾン** 粒剤

●初・中期一発処理除草剤

特農 **クリアランド** 粒剤

●初・中期一発処理除草剤

特農 **ザーク** 粒剤17.25

●新型除草剤

特農 **クロアベスト** 粒剤

二十世紀なしの
熟期促進、収穫・出荷の調節に

ISK LIL 10

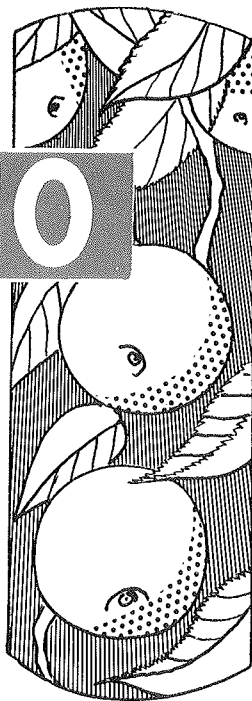
●——特長

1. 果実の品質を変えず、熟期・収穫期を促進します。
2. 散布時期を変えることにより、収穫時期の調節ができます。
3. 収穫期の調節によって、収穫労力の適正配分と、計画出荷ができます。
4. 収穫果実の品質のバラツキを少なくします。

2・4-D協議会

ISK 石原産業

★ 日産化学



流れは一発、ワンオール



水田初期一発処理除草剤

ワンオール®粒剤



農協
経済連
全農

ワンオール協議会

全国農業協同組合連合会
日本チバガイギー株式会社

石原産業株式会社
八洲化学工業株式会社

事務局 石原産業株式会社

東京都千代田区富士見2-10-30



効きめの長さを、あらゆる雑草で 証明するラウンドアップ。

「枯らしてもすぐ生える」というイライラに終止符。

ラウンドアップは、雑草の葉から入って根まで枯らしめます。根まで枯らしてしまえば、どんな雑草でも、長い間抑えることができます。

有用植物の根から吸収されません。

ラウンドアップは、いったん地面に落ちると、ただちに土の粒子に吸着され薬効を失います。ですから有用植物の根からは吸収されませんので作物には安全です。

取扱いが容易で、安心してご使用できます。

ラウンドアップは、動・植物の体を構成しているアミノ酸という自然な物質が主成分ですから、きわめて安全性が高く、取扱いも容易で安心してお使いいただけます。



®米国モンサント社登録商標

●ラウンドアップを詳しく説明したパンフレットを差し上げております。下記の住所までお申し込みください。

ラウンドアップ普及会 クミアイ化学工業(株)・三共(株)

事務局 日本モンサント株式会社農業事業部

〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1国際ビル Tel.(03)287-1251

資料請求
中・無料

チカラのウルコ

頑固な雑草に必殺一発パンチ!

今年本格販売

62年の結果は、
大好評!!

話題の低コスト除草
一発処理除草剤




農協・経済連・全農



クミアイ化学工業株式会社

水田除草 新時代

確かな効き目で、農作業にゆとりを作る!

マメット®SM粒剤

(水田中期除草剤)

- ノビエの3.5葉でも効果バッチリ!
- 多年生雑草にも効果抜群!
- 確実な雑草防除で、経済的!
- 残効が長く、省力的!
- 稲に安全、他剤の近接散布もOK!

■雑草の発生に合わせて姉妹品の
マメット®粒剤、オードラム®M粒剤
エスドラム®粒剤 ナクサー®粒剤 もお使いください。




農協・経済連・全農

八洲化学工業(株)・三笠化学工業(株)